

安城市 地震対策に関する市民アンケート結果

■実施概要

実施期間	平成 28 年 2 月 8 日～2 月 29 日
対象	安城市内在住の満 18 歳以上。無作為抽出
配布数	2,000 件
配布・回収方法	郵送
回収数	945 件（回収率：47.3%）

■回答の傾向

○大地震への関心と不安について

- ・南海トラフ地震への関心は高く（回答者の 92%）、地震が起きた際には、主に自宅の被害（75%）や家族の安否確認（58%）、インフラの被害（60%）や飲食料の確保（53%）に対する関心が高い。
- ・一方で、回答者の半数以上（55%～60%）が過去の大地震（三河地震、昭和東南海地震）や、南海トラフ巨大地震の被害想定を知らないか、あまり知らない。

○地震への備えについて

- ・概ね半数の回答者が、非常時の備蓄や保険への加入、耐震診断の実施を行っているものの、感震ブレーカーの設置やガラスの飛散防止などの家屋への対策を行っている回答者は 10% 前後と少ない。家具の転倒防止や耐震診断・改修を行っていない理由は手間や資金面が多く、概ね各人で出来る（取り組みやすい）対策から行っていると言える。
- ・食料や水の備蓄については、いずれも回答者の半数以上が 3～4 日以上の上の備蓄を確保している。

○地震時の行動や避難について

- ・防災情報や災害情報の入手チャンネルはテレビ、新聞などのマスメディアが多く（回答者の 90%程度）、次いで防災情報では回覧板（29%）、災害情報ではインターネット（38%）、市防災ラジオ（29%）となっている。
- ・知りたい情報は、家族・知人の安否（回答者の 76%）やライフラインの被害情報（61%）に次いで災害情報となっており、身近な情報の入手を希望している。
- ・避難場所や避難経路については回答者半数以上は知っているが、実際に確認したのは回答者の 2 割となっている。

○防災活動への参加と助け合いについて

- ・防災活動へは回答者の 6 割弱が未参加となっており、参加しない主な理由は「用事で都合がつかない」、「訓練等があることを知らない」といった理由が多い。
- ・参加してみたい防災活動は、救急救命講習が多く（回答者の 37%）、次いで家具転倒防止講習会（28%）が多くなっている。
- ・災害時に可能な自主的活動としては、安否確認（回答者の 50%）や炊き出し（41%）、初期消火（31%）などが多い。
- ・ボランティアセンターの立ち上げについては、回答者の 3/4 が知らない。

○地震対策に関連する制度や施策について

- ・市の施策では「安城市地震ハザードマップ」の認知度が最も高く(回答者の70%)、次いで「防災ラジオの販売(57%)」、「無料耐震診断制度、耐震改修補助制度(47%)」、「安城市総合防災訓練(47%)」が高くなっている。一方で認知度が低い施策は、「生垣等設置奨励補助金制度(9%)」、「災害時要援護者支援制度(11%)」、「福祉避難所の設置(12%)」などとなる。
- ・地震対策として希望する施策として、「避難所の環境整備」「水、食料等の備蓄の充実」「医療救護体制の充実」などが高くなっている。

○回答者属性

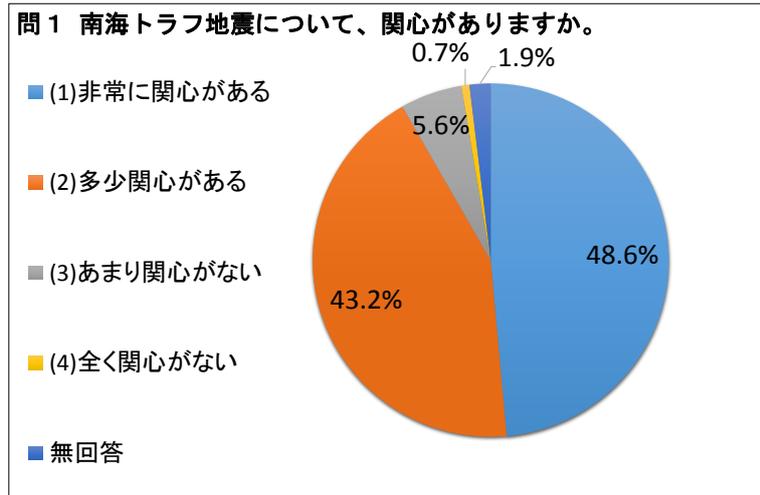
- ・性別では女性が半数を超えている。
- ・年齢では70歳以上が2割強で最も多くなっている。
- ・家族の人数は「2人」が最も多く、次いで「5人以上」「4人」となっている。
- ・要配慮者の有無は、「65歳以上の方」が最も多く、次いで「いない」、「乳児・未就学児」となっている。
- ・居住地は概ね各中学校区に分散しており、「安城北中学校区」が16%で最も多く、「明祥中学校区」が7%で最も少なくなっている。

■ 集計結果

1 大地震への関心と不安について

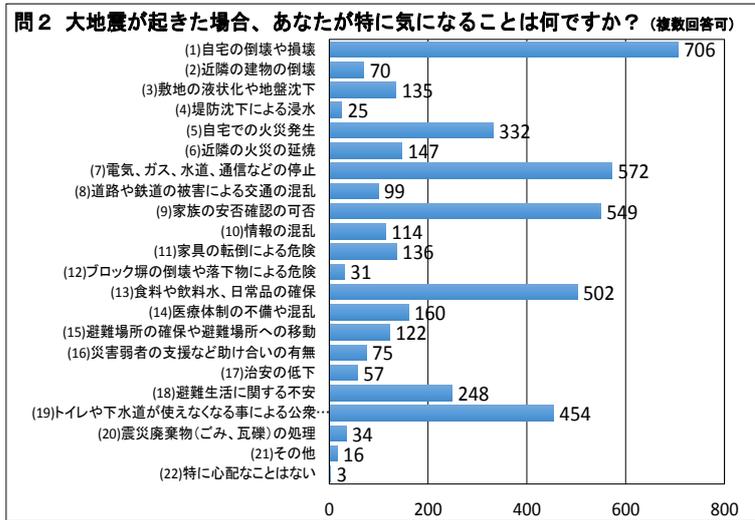
問1 南海トラフ地震について、関心がありますか。

	回答数	構成率
(1)非常に関心がある	459	48.6%
(2)多少関心がある	408	43.2%
(3)あまり関心がない	53	5.6%
(4)全く関心がない	7	0.7%
無回答	18	1.9%
合計	945	100.0%



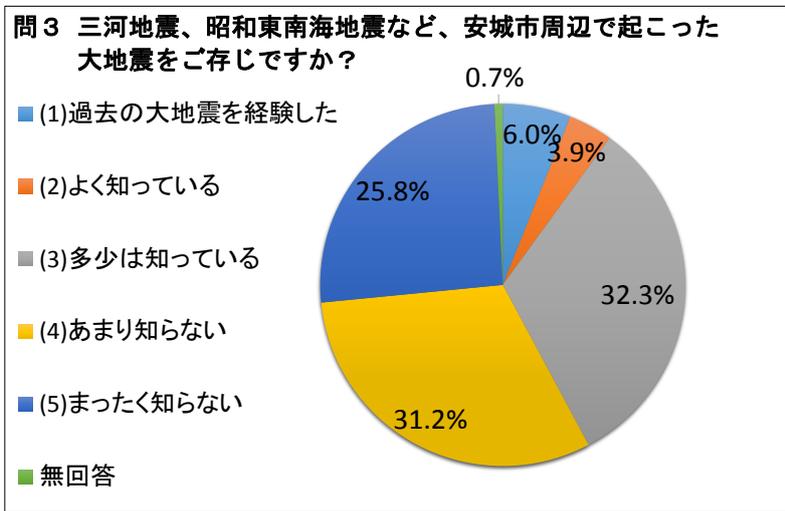
問2 大地震が起きた場合、あなたが特に気になることは何ですか？（複数回答可）

n=945	回答数	構成率
(1)自宅の倒壊や損壊	706	74.7%
(2)近隣の建物の倒壊	70	7.4%
(3)敷地の液状化や地盤沈下	135	14.3%
(4)堤防沈下による浸水	25	2.6%
(5)自宅での火災発生	332	35.1%
(6)近隣の火災の延焼	147	15.6%
(7)電気、ガス、水道、通信などの停止	572	60.5%
(8)道路や鉄道の被害による交通の混乱	99	10.5%
(9)家族の安否確認の可否	549	58.1%
(10)情報の混乱	114	12.1%
(11)家具の転倒による危険	136	14.4%
(12)ブロック塀の倒壊や落下物による危険	31	3.3%
(13)食料や飲料水、日用品の確保	502	53.1%
(14)医療体制の不備や混乱	160	16.9%
(15)避難場所の確保や避難場所への移動	122	12.9%
(16)災害弱者の支援など助け合いの有無	75	7.9%
(17)治安の低下	57	6.0%
(18)避難生活に関する不安	248	26.2%
(19)トイレや下水道が使えなくなる事による公衆衛生の悪化	454	48.0%
(20)震災廃棄物(ごみ、瓦礫)の処理	34	3.6%
(21)その他	16	1.7%
(22)特に心配なことはない	3	0.3%
合計	4587	485.4%



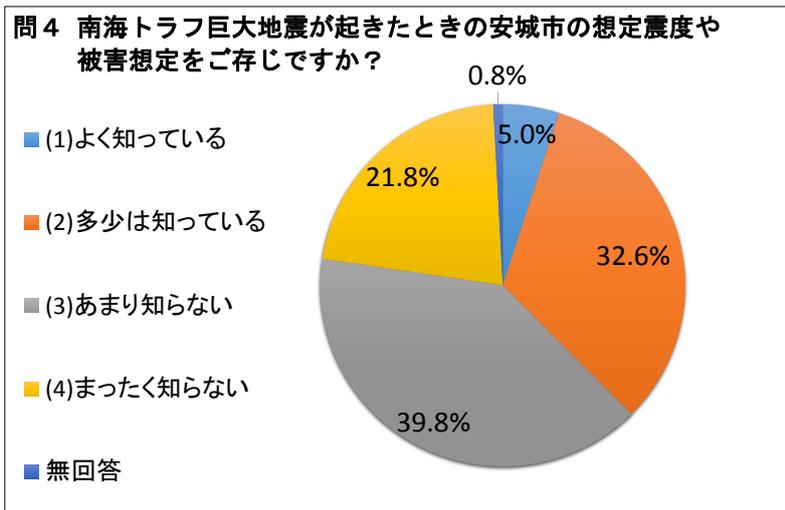
問3 三河地震、昭和東南海地震など、安城市周辺で起こった大地震をご存じですか？

	回答数	構成率
(1)過去の大地震を経験した	57	6.0%
(2)よく知っている	37	3.9%
(3)多少は知っている	305	32.3%
(4)あまり知らない	295	31.2%
(5)まったく知らない	244	25.8%
無回答	7	0.7%
合計	945	100.0%



問4 南海トラフ巨大地震が起きたときの安城市の想定震度や被害想定をご存じですか？

	回答数	構成率
(1)よく知っている	47	5.0%
(2)多少は知っている	308	32.6%
(3)あまり知らない	376	39.8%
(4)まったく知らない	206	21.8%
無回答	8	0.8%
合計	945	100.0%

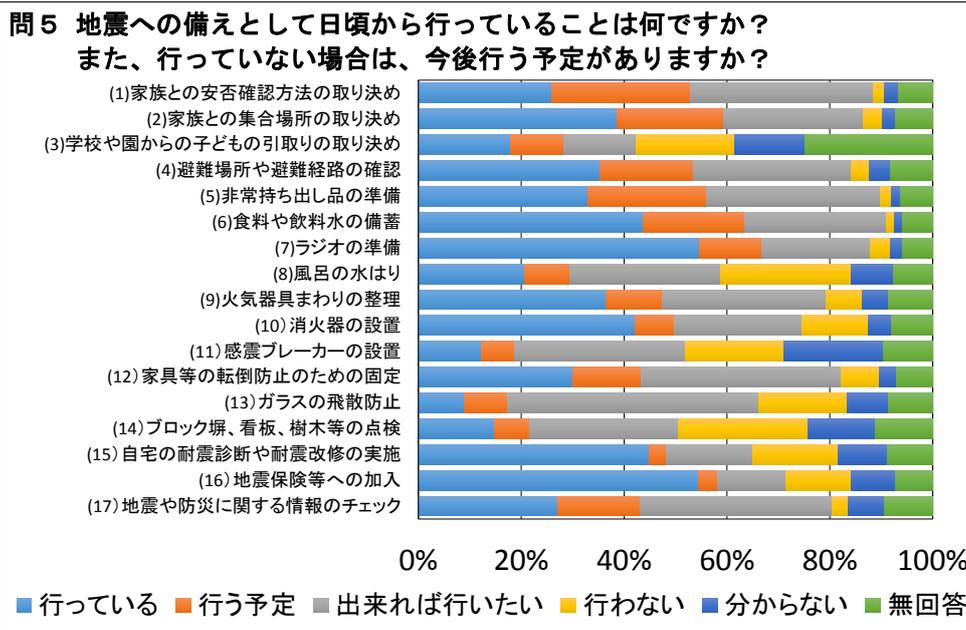


2 地震への備えについて

問5 地震への備えとして日頃から行っていることは何ですか？また、行っていない場合は、今後行う予定がありますか？（各回答は1つ）

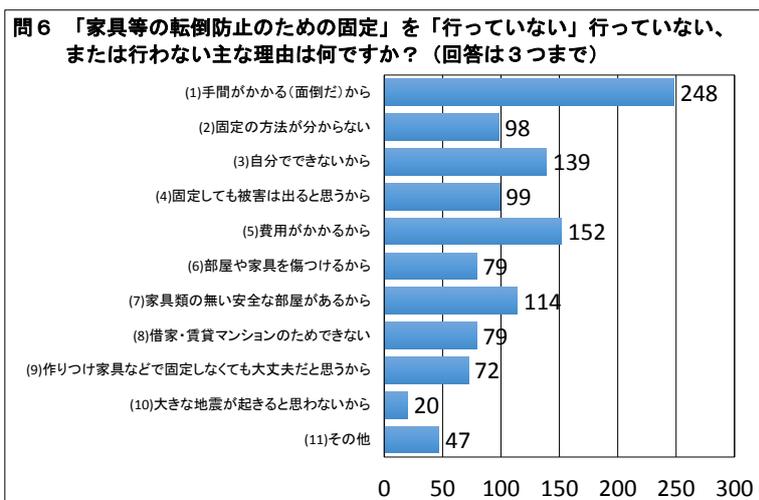
	行っている	行う予定	出来れば行いたい	行わない	分からない	無回答	合計
(1)家族との安否確認方法の取り決め	245	254	337	21	25	63	945
(2)家族との集合場所の取り決め	365	195	257	35	24	69	945
(3)学校や園からの子どもの引取りの取り決め	170	97	133	182	128	235	945
(4)避難場所や避難経路の確認	333	172	290	33	40	77	945
(5)非常持ち出し品の準備	312	218	319	21	16	59	945
(6)食料や飲料水の備蓄	414	185	261	15	14	56	945
(7)ラジオの準備	516	115	199	38	22	55	945
(8)風呂の水はり	196	83	277	239	77	73	945
(9)火気器具まわりの整理	344	104	301	67	48	81	945
(10)消火器の設置	398	72	235	122	43	75	945
(11)感震ブレーカーの設置	115	61	314	181	183	91	945
(12)家具等の転倒防止のための固定	283	127	367	71	31	66	945
(13)ガラスの飛散防止	85	79	462	161	77	81	945
(14)ブロック塀、看板、樹木等の点検	139	65	274	238	123	106	945
(15)自宅の耐震診断や耐震改修の実施	424	31	160	156	90	84	945
(16)地震保険等への加入	515	35	125	120	81	69	945
(17)地震や防災に関する情報のチェック	256	151	353	30	67	88	945

構成率	行っている	行う予定	出来れば行いたい	行わない	分からない	無回答	合計
(1)家族との安否確認方法の取り決め	25.9%	26.9%	35.7%	2.2%	2.6%	6.7%	100.0%
(2)家族との集合場所の取り決め	38.6%	20.6%	27.2%	3.7%	2.5%	7.3%	100.0%
(3)学校や園からの子どもの引取りの取り決め	18.0%	10.3%	14.1%	19.3%	13.5%	24.9%	100.0%
(4)避難場所や避難経路の確認	35.2%	18.2%	30.7%	3.5%	4.2%	8.1%	100.0%
(5)非常持ち出し品の準備	33.0%	23.1%	33.8%	2.2%	1.7%	6.2%	100.0%
(6)食料や飲料水の備蓄	43.8%	19.6%	27.6%	1.6%	1.5%	5.9%	100.0%
(7)ラジオの準備	54.6%	12.2%	21.1%	4.0%	2.3%	5.8%	100.0%
(8)風呂の水はり	20.7%	8.8%	29.3%	25.3%	8.1%	7.7%	100.0%
(9)火気器具まわりの整理	36.4%	11.0%	31.9%	7.1%	5.1%	8.6%	100.0%
(10)消火器の設置	42.1%	7.6%	24.9%	12.9%	4.6%	7.9%	100.0%
(11)感震ブレーカーの設置	12.2%	6.5%	33.2%	19.2%	19.4%	9.6%	100.0%
(12)家具等の転倒防止のための固定	29.9%	13.4%	38.8%	7.5%	3.3%	7.0%	100.0%
(13)ガラスの飛散防止	9.0%	8.4%	48.9%	17.0%	8.1%	8.6%	100.0%
(14)ブロック塀、看板、樹木等の点検	14.7%	6.9%	29.0%	25.2%	13.0%	11.2%	100.0%
(15)自宅の耐震診断や耐震改修の実施(※)	44.9%	3.3%	16.9%	16.5%	9.5%	8.9%	100.0%
(16)地震保険等への加入	54.5%	3.7%	13.2%	12.7%	8.6%	7.3%	100.0%
(17)地震や防災に関する情報のチェック	27.1%	16.0%	37.4%	3.2%	7.1%	9.3%	100.0%



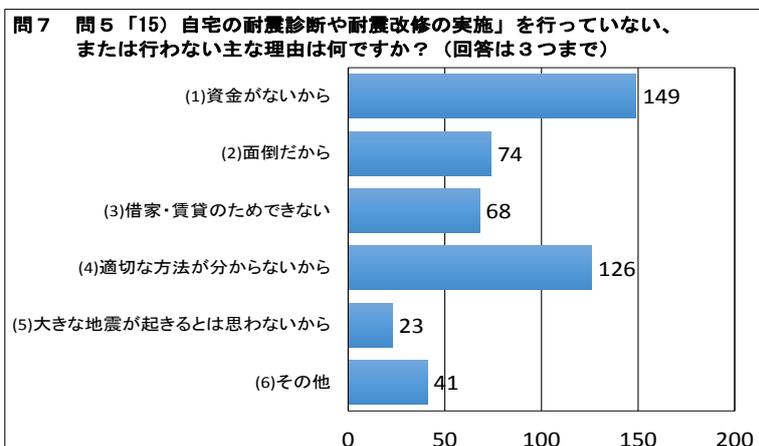
問6 問5「12) 家具等の転倒防止のための固定」で「行っていない(2~4のいずれか)」と回答された方にお聞きします。これらの対策を行っていない、または行わない主な理由は何ですか？(回答は3つまで)

n=631	回答数	構成率
(1)手間がかかる(面倒だ)から	248	39.3%
(2)固定の方法が分からない	98	15.5%
(3)自分でできないから	139	22.0%
(4)固定しても被害は出ると思うから	99	15.7%
(5)費用がかかるから	152	24.1%
(6)部屋や家具を傷つけるから	79	12.5%
(7)家具類の無い安全な部屋があるから	114	18.1%
(8)借家・賃貸マンションのためできない	79	12.5%
(9)作りつけ家具などで固定しなくても大丈夫だと思うから	72	11.4%
(10)大きな地震が起きると思わないから	20	3.2%
(11)その他	47	7.4%
合計	1147	181.8%



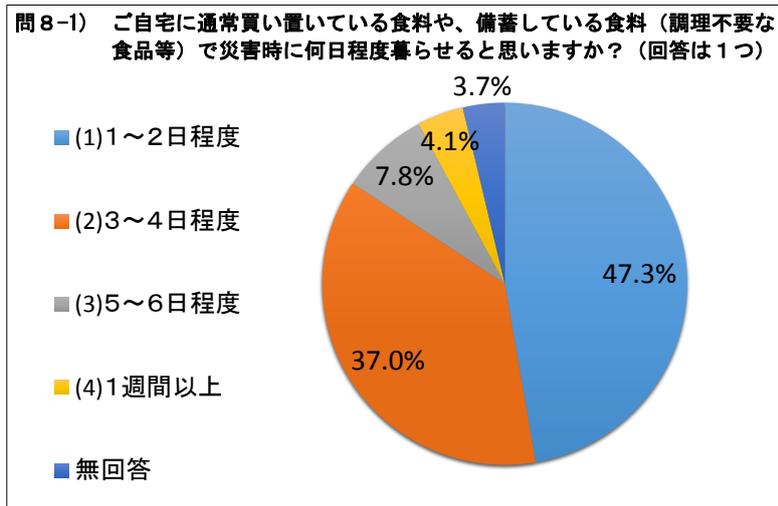
問7 問5「15) 自宅の耐震診断や耐震改修の実施」で「行っていない(2~4のいずれか)」と回答された方にお聞きします。これらの対策を行っていない、または行わない主な理由は何ですか？(回答は3つまで)

n=431	回答数	構成率
(1)資金がないから	149	34.6%
(2)面倒だから	74	17.2%
(3)借家・賃貸のためできない	68	15.8%
(4)適切な方法が分からないから	126	29.2%
(5)大きな地震が起きるとは思わないから	23	5.3%
(6)その他	41	9.5%
合計	481	111.6%



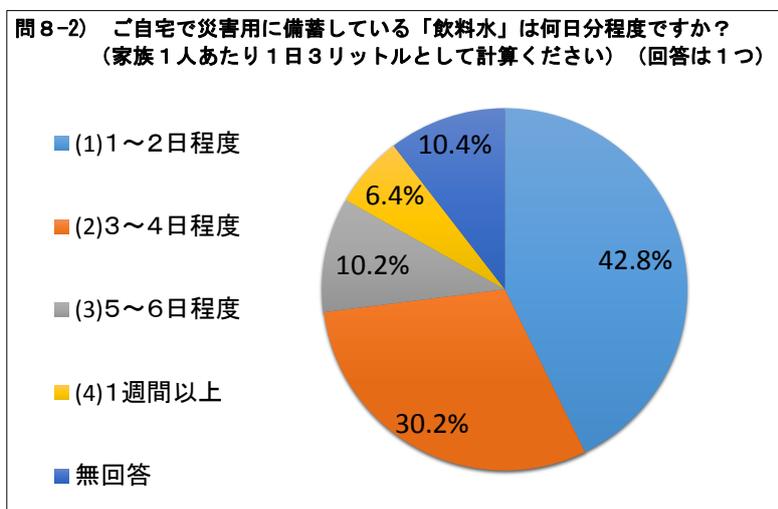
問8-1) ご自宅に通常買い置いている食料や、備蓄している食料（調理不要な食品等）で災害時に何日程度暮らせるとお考えですか？（回答は1つ）

	回答数	構成率
(1)1～2日程度	447	47.3%
(2)3～4日程度	350	37.0%
(3)5～6日程度	74	7.8%
(4)1週間以上	39	4.1%
無回答	35	3.7%
合計	945	100.0%



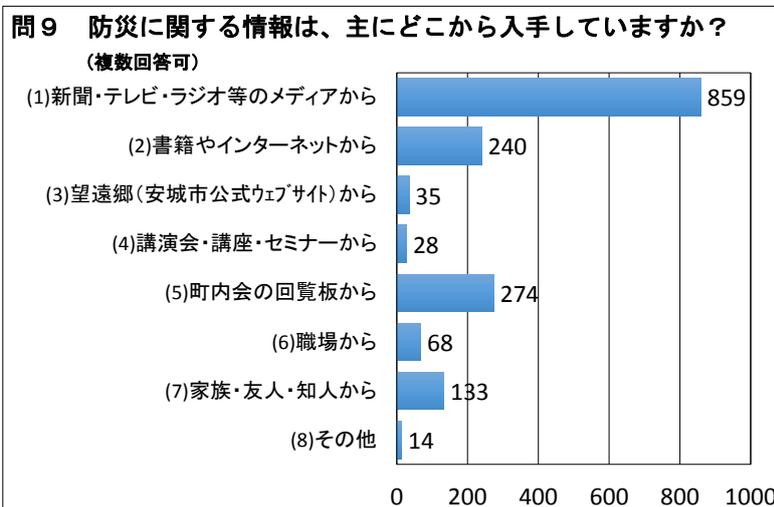
問8-2) 「6）食料や飲料水の備蓄」で「1行っている」と回答された方にお聞きします。ご自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか？（家族1人あたり1日3リットルとして計算ください）（回答は1つ）

n=470	回答数	構成率
(1)1～2日程度	201	42.8%
(2)3～4日程度	142	30.2%
(3)5～6日程度	48	10.2%
(4)1週間以上	30	6.4%
無回答	49	10.4%
合計	470	100.0%



問9 防災に関する情報は、主にどこから入手していますか？（複数回答可）

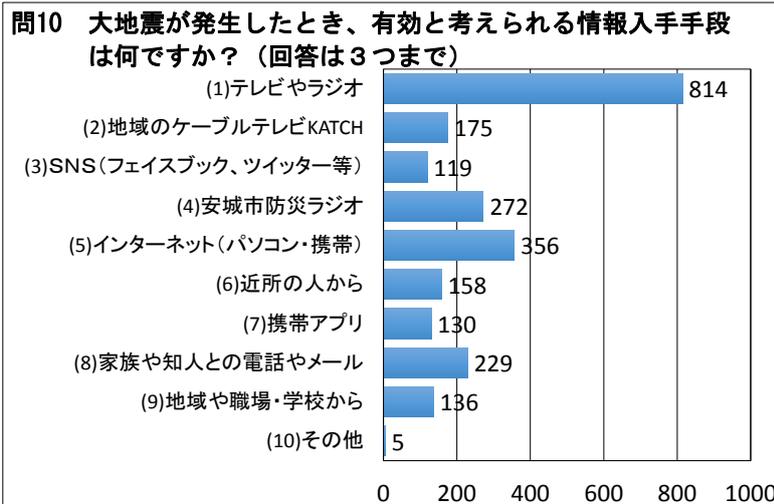
n=945	回答数	構成率
(1)新聞・テレビ・ラジオ等のメディアから	859	90.9%
(2)書籍やインターネットから	240	25.4%
(3)望遠郷(安城市公式ウェブサイト)から	35	3.7%
(4)講演会・講座・セミナーから	28	3.0%
(5)町内会の回覧板から	274	29.0%
(6)職場から	68	7.2%
(7)家族・友人・知人から	133	14.1%
(8)その他	14	1.5%
合計	1651	174.7%



3 大地震発生時の行動と避難について

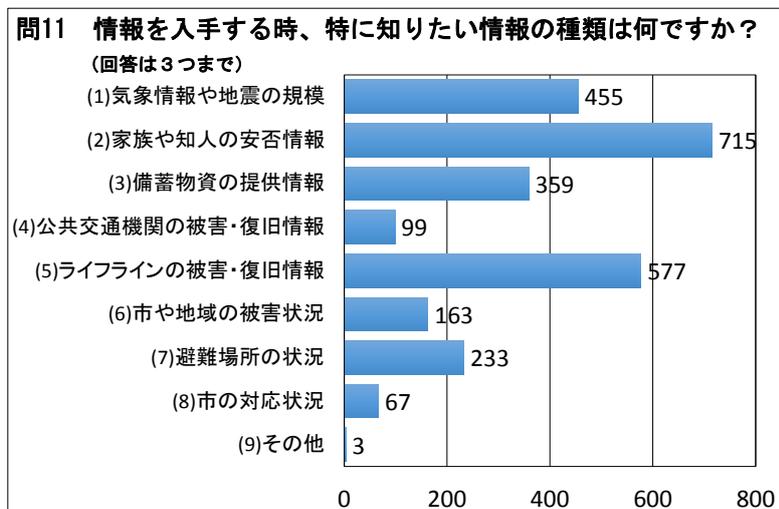
問 10 大地震が発生したとき、有効と考えられる情報入手手段は何ですか？（回答は3つまで）

n=945	回答数	構成率
(1)テレビやラジオ	814	86.1%
(2)地域のケーブルテレビKATCH	175	18.5%
(3)SNS(フェイスブック、ツイッター等)	119	12.6%
(4)安城市防災ラジオ	272	28.8%
(5)インターネット(パソコン・携帯)	356	37.7%
(6)近所の人から	158	16.7%
(7)携帯アプリ	130	13.8%
(8)家族や知人との電話やメール	229	24.2%
(9)地域や職場・学校から	136	14.4%
(10)その他	5	0.5%
合計	2394	253.3%



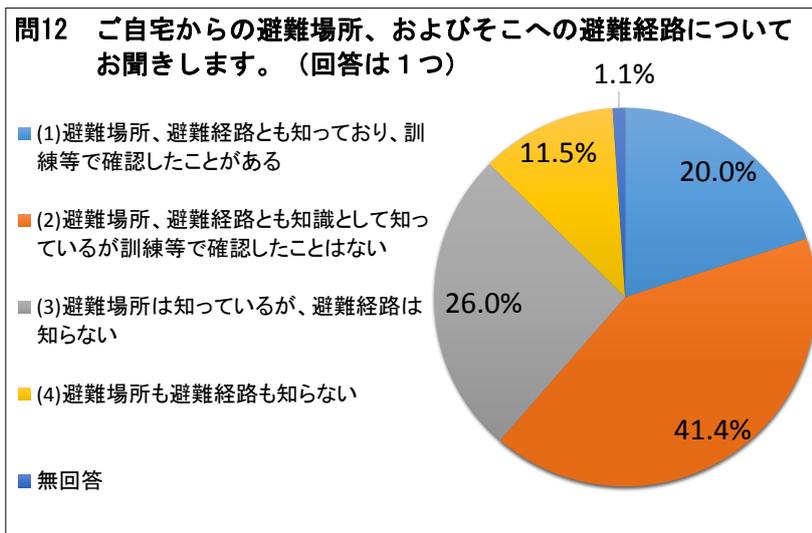
問 11 情報を入力する時、特に知りたい情報の種類は何ですか？（回答は3つまで）

n=945	回答数	構成率
(1)気象情報や地震の規模	455	48.1%
(2)家族や知人の安否情報	715	75.7%
(3)備蓄物資の提供情報	359	38.0%
(4)公共交通機関の被害・復旧情報	99	10.5%
(5)ライフラインの被害・復旧情報	577	61.1%
(6)市や地域の被害状況	163	17.2%
(7)避難場所の状況	233	24.7%
(8)市の対応状況	67	7.1%
(9)その他	3	0.3%
合計	2671	282.6%



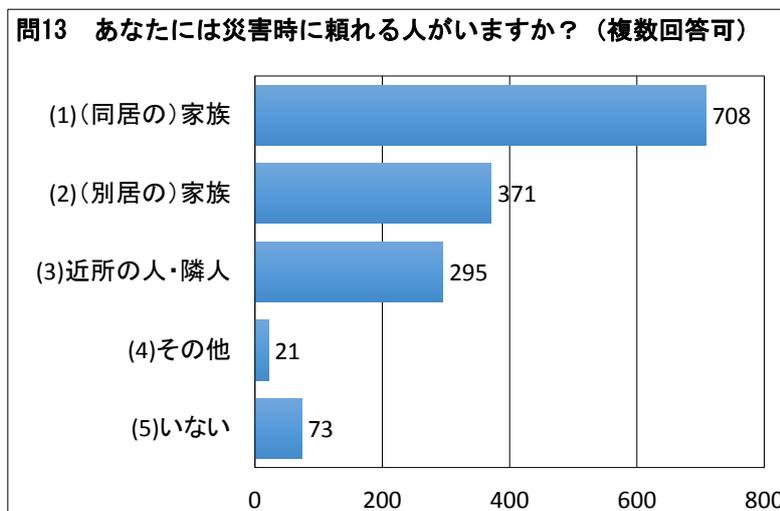
問 12 ご自宅からの避難場所（避難所・一時避難地・広域避難場所）、およびそこへの避難経路についてお聞きします。（回答は1つ）

	回答数	構成率
(1)避難場所、避難経路とも知っており、訓練等で確認したことがある	189	20.0%
(2)避難場所、避難経路とも知識として知っているが訓練等で確認したことはない	391	41.4%
(3)避難場所は知っているが、避難経路は知らない	246	26.0%
(4)避難場所も避難経路も知らない	109	11.5%
無回答	10	1.1%
合計	945	100.0%



問 13 あなたには災害時に頼れる人がいますか？（複数回答可）

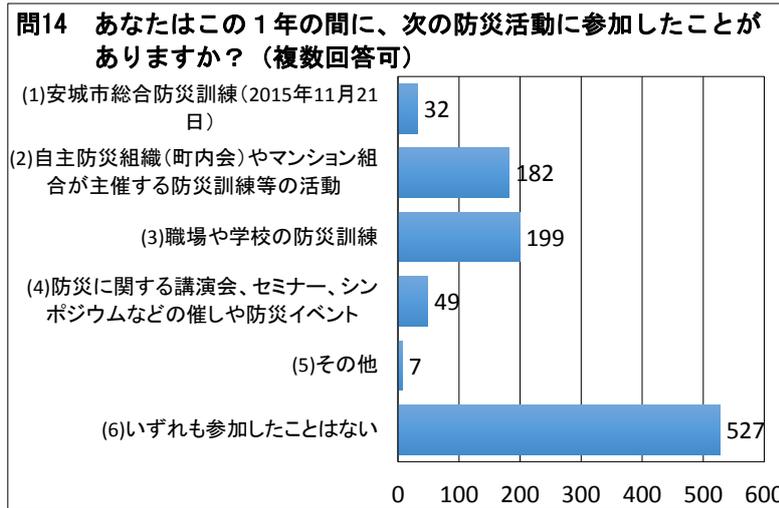
n=945	回答数	構成率
(1)(同居の)家族	708	74.9%
(2)(別居の)家族	371	39.3%
(3)近所の人・隣人	295	31.2%
(4)その他	21	2.2%
(5)いない	73	7.7%
合計	2413	255.3%



4 防災活動への参加と助け合いについて

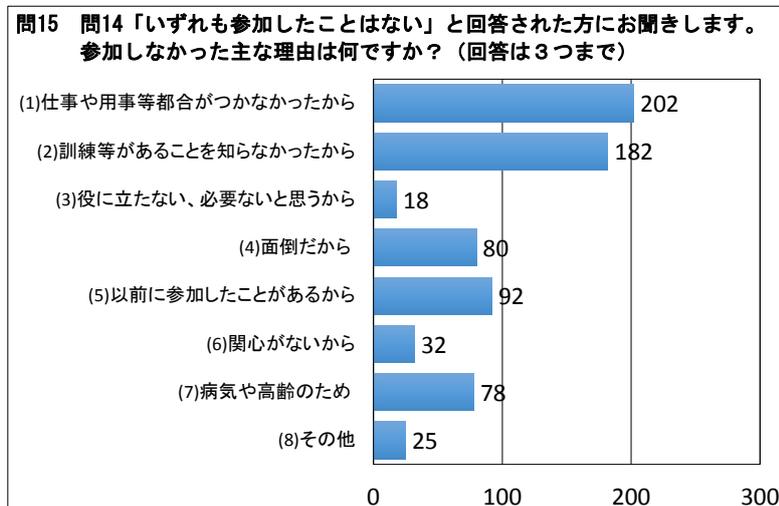
問 14 あなたはこの1年の間に、次の防災活動に参加したことがありますか？（複数回答可）

n=945	回答数	構成率
(1)安城市総合防災訓練(2015年11月21日)	32	3.4%
(2)自主防災組織(町内会)やマンション組合が主催する防災訓練等の活動	182	19.3%
(3)職場や学校の防災訓練	199	21.1%
(4)防災に関する講演会、セミナー、シンポジウムなどの催しや防災イベント	49	5.2%
(5)その他	7	0.7%
(6)いずれも参加したことはない	527	55.8%
合計	996	105.4%



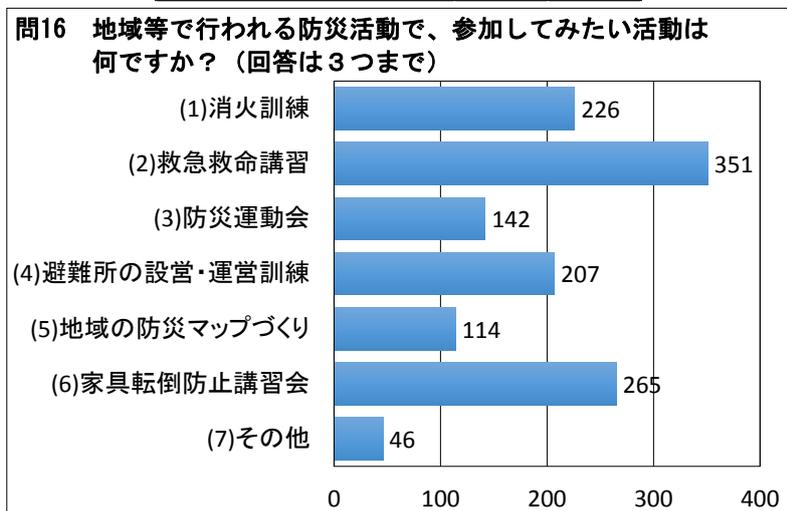
問 15 問 14 で「6 いずれも参加したことはない」と回答された方にお聞きします。参加しなかった主な理由は何ですか？（回答は3つまで）

n=527	回答数	構成率
(1)仕事や用事等都合がつかないから	202	38.3%
(2)訓練等があることを知らなかったから	182	34.5%
(3)役に立たない、必要ないと思うから	18	3.4%
(4)面倒だから	80	15.2%
(5)以前に参加したことがあるから	92	17.5%
(6)関心がないから	32	6.1%
(7)病気や高齢のため	78	14.8%
(8)その他	25	4.7%
合計	709	134.5%



問 16 地域等で行われる防災活動で、参加してみたい活動は何ですか？（回答は3つまで）

n=945	回答数	構成率
(1)消火訓練	226	23.9%
(2)救急救命講習	351	37.1%
(3)防災運動会	142	15.0%
(4)避難所の設営・運営訓練	207	21.9%
(5)地域の防災マップづくり	114	12.1%
(6)家具転倒防止講習会	265	28.0%
(7)その他	46	4.9%
合計	1351	143.0%



問 17 地域等で行われる防災活動で、今後あって欲しい活動は何ですか？

※類似意見を集約／全意見は後述の「各設問の意見欄」を参照

○救急救命訓練

救急救命訓練・高齢者の搬送訓練／AED 講習／瓦礫などには挟まれた人の救出方法の教育／ケガなどの手当て方法／けが人の応急手当や救助の仕方／救急救命器具の使用方法／地域出張型救急救命講習

○消防訓練

煙の中の訓練／火災、空き巣／近隣火災の初期消火訓練／消火器、備蓄用食料の配布／消火器の使用方法、実施など／消火器の点検／常時在宅者（高齢者中心）による救出活動／地域別の防火訓練

○避難訓練

アパート・マンション（高層）からの避難方法／市民全員での避難訓練／家族が高齢者のみの場合の避難方法／各町内会で年 1 回避難訓練／実際に避難所への避難する訓練／小さな子供や高齢者、障がい者を含め、みんなで避難場所、避難経路の確認／町内で避難所のことを話し合いたい／避難訓練／避難経路のウォーキング／避難施設に実際に宿泊／避難時の設営・運営訓練／避難所生活（トイレなど）や食料などがどれぐらいで届くかの説明／避難の概要説明会

○学習・体験

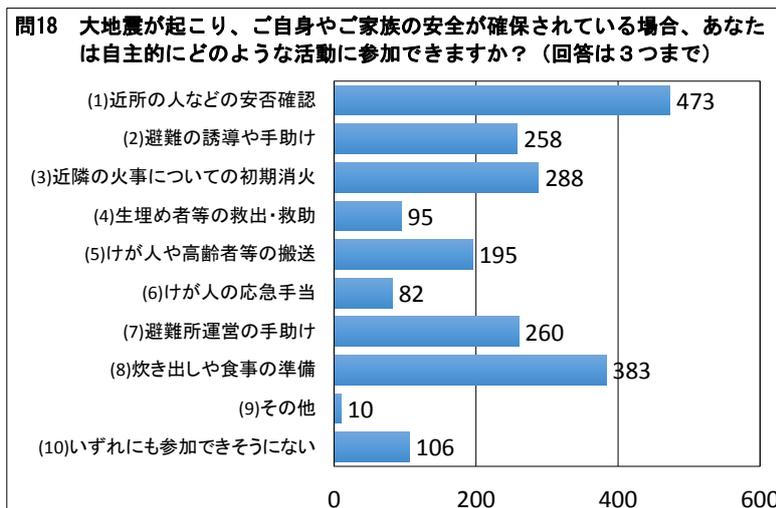
ペット、マナー、衛生などの講習／非常食品を使って食べられるレシピ／災害時における笑顔の増やし方／災害時の対処法（サバイバル etc）／災害情報弱者への理解講習／南海トラフ巨大地震を設定した各地域での対処法／日本語が理解できない人達のための各外国語対応／非常持ち出し品（の工夫）について／防災時に役に立つ知恵を教えてくれる講習会／防災用品の使い方（トイレ、食料など）の講習／家で出来る防災訓練／家具転倒防止講習会／身近な道具の便利な使用方法／地震体験、消火体験等の体験学習／情報収集方法、避難所でのプライバシー確保方法などの講習会／飯ごう炊飯体験

○防災訓練（全般）

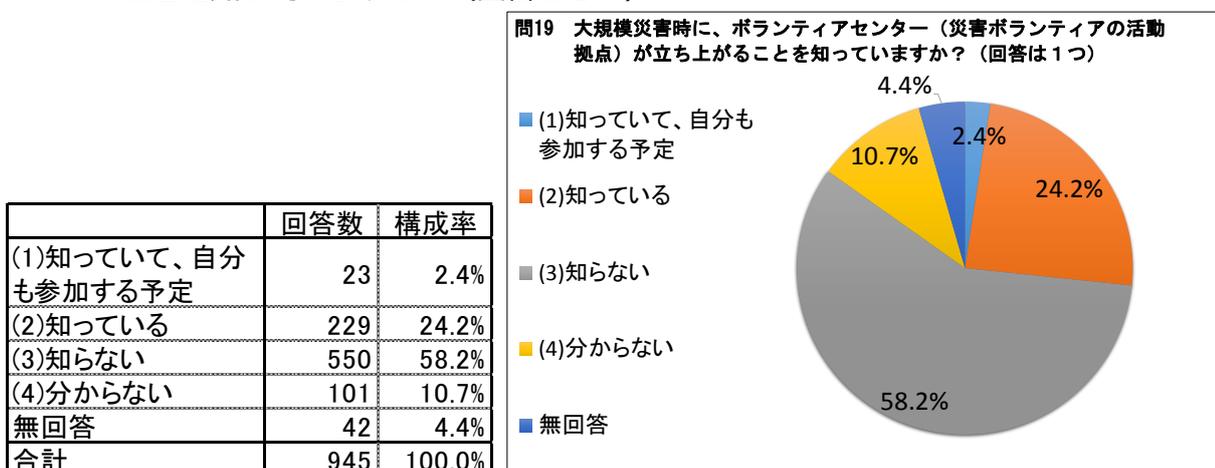
炊き出し／ハザードマップの配布／安否確認の実際／高齢者のための訓練／炊き出しの訓練／炊き出しや非常時の食料の準備／地震時の安否確認訓練／非常食や物品の確認を行う活動／備蓄可能食品の試食／備蓄品の配布（ラジオや水）／防災運動会／夜の避難活動

問 18 大地震が起こり、ご自身やご家族の安全が確保されている場合、あなたは自主的にどのような活動に参加できますか？（回答は3つまで）

n=945	回答数	構成率
(1)近所の人などの安否確認	473	50.1%
(2)避難の誘導や手助け	258	27.3%
(3)近隣の火事についての初期消火	288	30.5%
(4)生埋め者等の救出・救助	95	10.1%
(5)けが人や高齢者等の搬送	195	20.6%
(6)けが人の応急手当	82	8.7%
(7)避難所運営の手助け	260	27.5%
(8)炊き出しや食事の準備	383	40.5%
(9)その他	10	1.1%
(10)いずれにも参加できそうにない	106	11.2%
合計	2150	227.5%



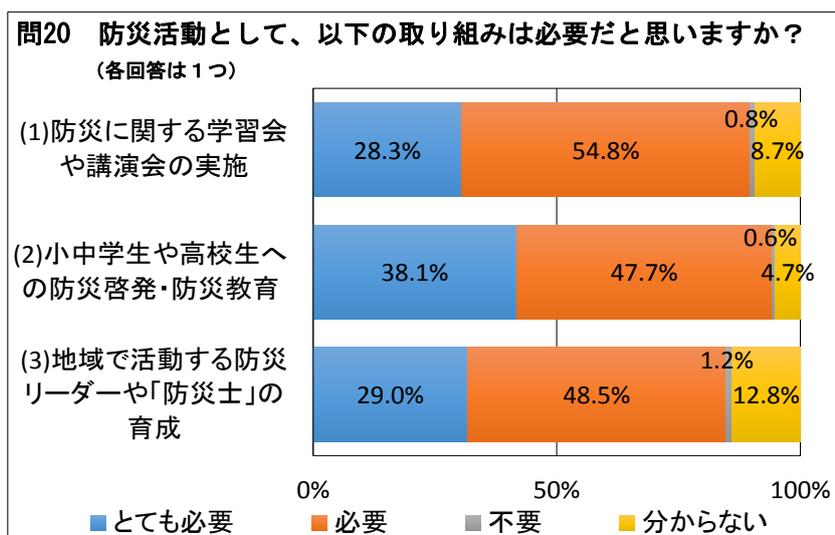
問 19 大規模災害時に、ボランティアセンター（災害ボランティアの活動拠点）が立ち上がることを知っていますか？（回答は1つ）



問 20 防災活動として、以下の取り組みは必要だと思いますか？（各回答は1つ）

回答数	とても必要	必要	不要	分からない	無回答	合計
(1)防災に関する学習会や講演会の実施	267	518	8	82	70	945
(2)小中学生や高校生への防災啓発・防災教育	360	451	6	44	84	945
(3)地域で活動する防災リーダーや「防災士」の育成	274	458	11	121	81	945

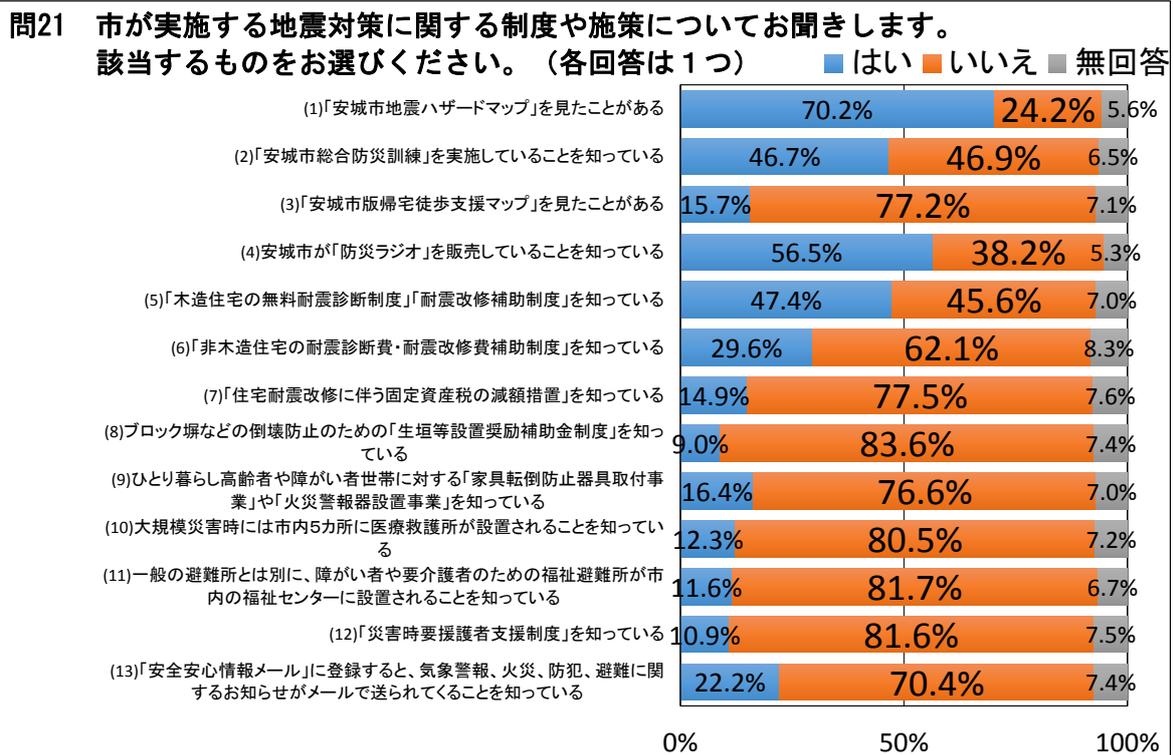
構成率	とても必要	必要	不要	分からない	無回答	合計
(1)防災に関する学習会や講演会の実施	28.3%	54.8%	0.8%	8.7%	7.4%	100.0%
(2)小中学生や高校生への防災啓発・防災教育	38.1%	47.7%	0.6%	4.7%	8.9%	100.0%
(3)地域で活動する防災リーダーや「防災士」の育成	29.0%	48.5%	1.2%	12.8%	8.6%	100.0%



5 地震対策に関連する制度や施策について

問 21 市が実施する地震対策に関する制度や施策についてお聞きします。該当するものをお選びください。(各回答は1つ)

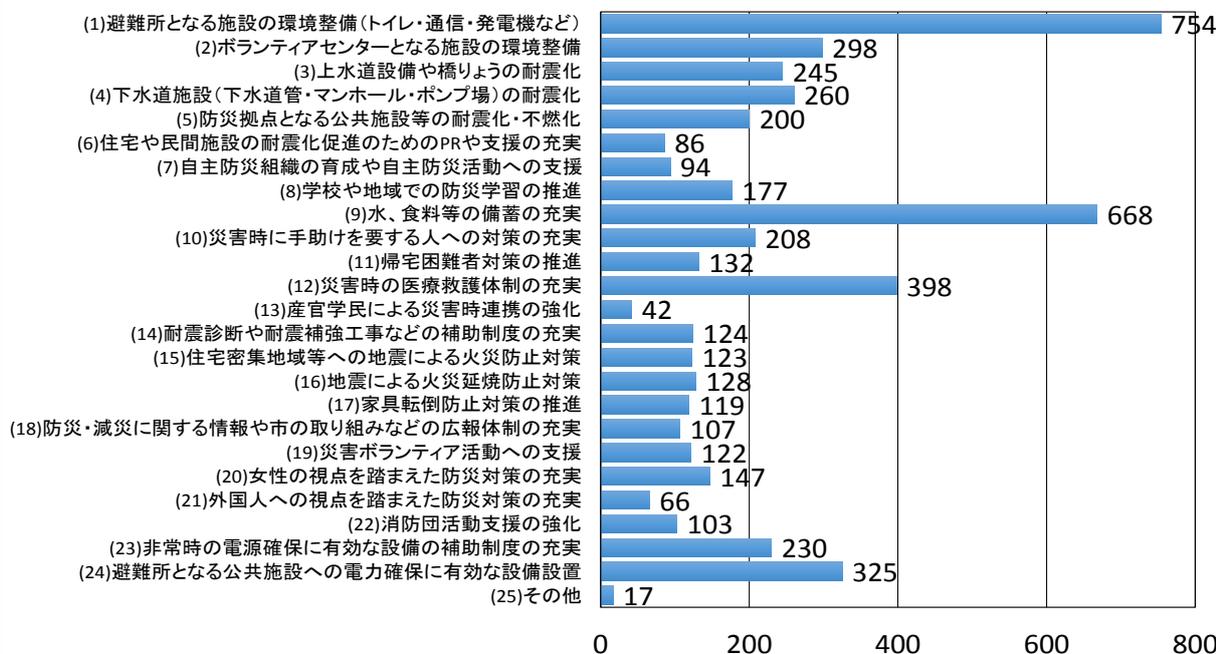
	回答数				構成率			
	はい	いいえ	無回答	合計	はい	いいえ	無回答	合計
(1)「安城市地震ハザードマップ」を見たことがある	663	229	53	945	70.2%	24.2%	5.6%	100.0%
(2)「安城市総合防災訓練」を実施していることを知っている	441	443	61	945	46.7%	46.9%	6.5%	100.0%
(3)「安城市版帰宅徒歩支援マップ」を見たことがある	148	730	67	945	15.7%	77.2%	7.1%	100.0%
(4)安城市が「防災ラジオ」を販売していることを知っている	534	361	50	945	56.5%	38.2%	5.3%	100.0%
(5)「木造住宅の無料耐震診断制度」「耐震改修補助制度」を知っている	448	431	66	945	47.4%	45.6%	7.0%	100.0%
(6)「非木造住宅の耐震診断費・耐震改修費補助制度」を知っている	280	587	78	945	29.6%	62.1%	8.3%	100.0%
(7)「住宅耐震改修に伴う固定資産税の減額措置」を知っている	141	732	72	945	14.9%	77.5%	7.6%	100.0%
(8)ブロック塀などの倒壊防止のための「生垣等設置奨励補助金制度」を知っている	85	790	70	945	9.0%	83.6%	7.4%	100.0%
(9)ひとり暮らし高齢者や障がい者世帯に対する「家具転倒防止器具取付事業」や「火災警報器設置事業」を知っている	155	724	66	945	16.4%	76.6%	7.0%	100.0%
(10)大規模災害時には市内5カ所に医療救護所が設置されることを知っている	116	761	68	945	12.3%	80.5%	7.2%	100.0%
(11)一般の避難所とは別に、障がい者や要介護者のための福祉避難所が市内の福祉センターに設置されることを知っている	110	772	63	945	11.6%	81.7%	6.7%	100.0%
(12)「災害時要援護者支援制度」を知っている	103	771	71	945	10.9%	81.6%	7.5%	100.0%
(13)「安全安心情報メール」に登録すると、気象警報、火災、防犯、避難に関するお知らせがメールで送られてくることを知っている	210	665	70	945	22.2%	70.4%	7.4%	100.0%



問 22 地震対策として今後、市に力を入れて取り組んでほしいことは何ですか？（回答は7つまで）

n=945	回答数	構成率
(1)避難所となる施設の環境整備(トイレ・通信・発電機など)	754	79.8%
(2)ボランティアセンターとなる施設の環境整備	298	31.5%
(3)上水道設備や橋りょうの耐震化	245	25.9%
(4)下水道施設(下水道管・マンホール・ポンプ場)の耐震化	260	27.5%
(5)防災拠点となる公共施設等の耐震化・不燃化	200	21.2%
(6)住宅や民間施設の耐震化促進のためのPRや支援の充実	86	9.1%
(7)自主防災組織の育成や自主防災活動への支援	94	9.9%
(8)学校や地域での防災学習の推進	177	18.7%
(9)水、食料等の備蓄の充実	668	70.7%
(10)災害時に手助けを要する人への対策の充実	208	22.0%
(11)帰宅困難者対策の推進	132	14.0%
(12)災害時の医療救護体制の充実	398	42.1%
(13)産官学民による災害時連携の強化	42	4.4%
(14)耐震診断や耐震補強工事などの補助制度の充実	124	13.1%
(15)住宅密集地域等への地震による火災防止対策	123	13.0%
(16)地震による火災延焼防止対策	128	13.5%
(17)家具転倒防止対策の推進	119	12.6%
(18)防災・減災に関する情報や市の取り組みなどの広報体制の充実	107	11.3%
(19)災害ボランティア活動への支援	122	12.9%
(20)女性の視点を踏まえた防災対策の充実	147	15.6%
(21)外国人への視点を踏まえた防災対策の充実	66	7.0%
(22)消防団活動支援の強化	103	10.9%
(23)非常時の電源確保に有効な設備の補助制度の充実	230	24.3%
(24)避難所となる公共施設への電力確保に有効な設備設置	325	34.4%
(25)その他	17	1.8%
合計	5173	547.4%

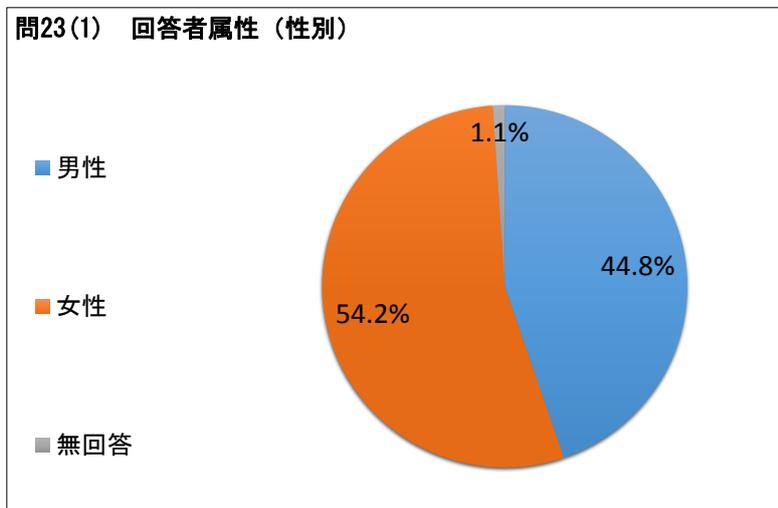
問22 地震対策として今後、市に力を入れて取り組んでほしいことは何ですか？（回答は7つまで）



6 あなたご自身のことについて

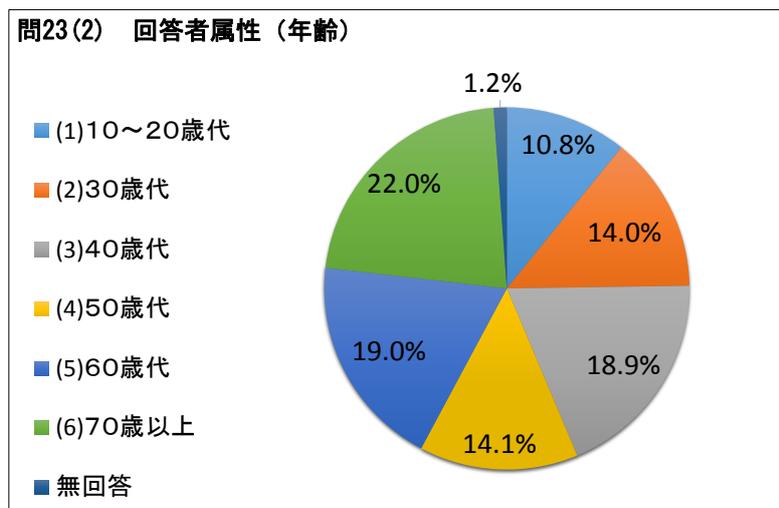
問 23 (1) 性別

	回答数	構成率
男性	423	44.8%
女性	512	54.2%
無回答	10	1.1%
合計	945	100.0%



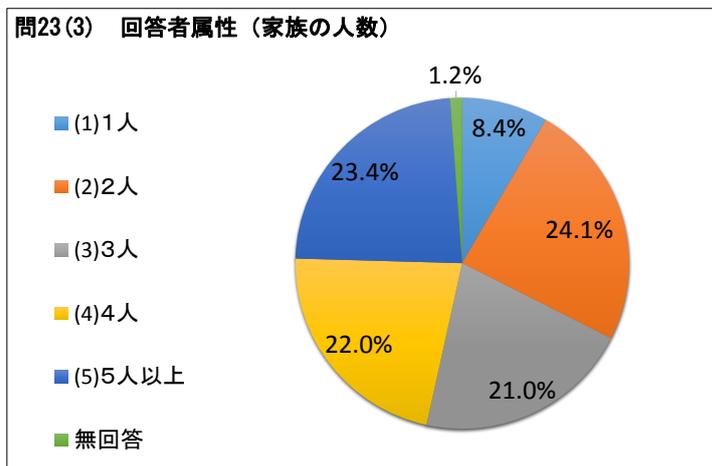
問 23 (2) 年齢

	回答数	構成率
(1)10～20歳代	102	10.8%
(2)30歳代	132	14.0%
(3)40歳代	179	18.9%
(4)50歳代	133	14.1%
(5)60歳代	180	19.0%
(6)70歳以上	208	22.0%
無回答	11	1.2%
合計	945	100.0%



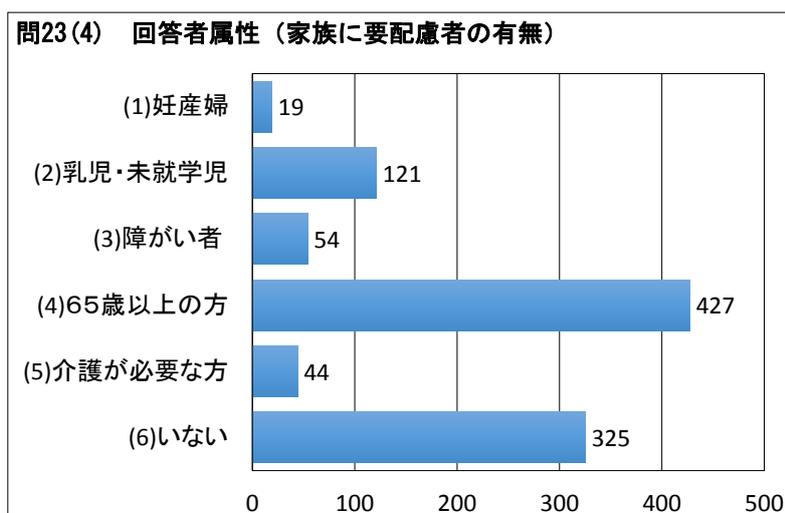
問 23 (3) 家族の人数

	回答数	構成率
(1)1人	79	8.4%
(2)2人	228	24.1%
(3)3人	198	21.0%
(4)4人	208	22.0%
(5)5人以上	221	23.4%
無回答	11	1.2%
合計	945	100.0%



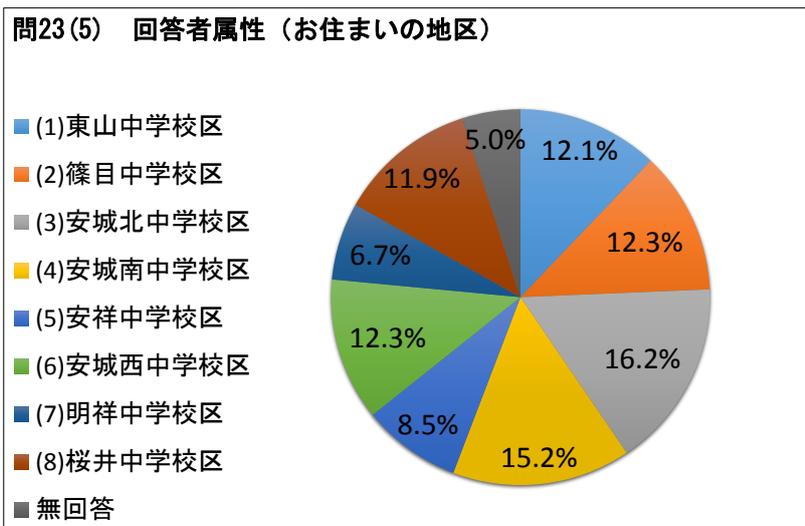
問 23 (4) あなたを含む同居のご家族で、次に該当する方はいますか？ (複数回答可)

n=945	回答数	構成率
(1)妊産婦	19	2.0%
(2)乳児・未就学児	121	12.8%
(3)障がい者	54	5.7%
(4)65歳以上の方	427	45.2%
(5)介護が必要な方	44	4.7%
(6)いない	325	34.4%
合計	990	104.8%



問 23 (5) お住まいの地区

	回答数	構成率
(1)東山中学校区	114	12.1%
(2)篠目中学校区	116	12.3%
(3)安城北中学校区	153	16.2%
(4)安城南中学校区	144	15.2%
(5)安祥中学校区	80	8.5%
(6)安城西中学校区	116	12.3%
(7)明祥中学校区	63	6.7%
(8)桜井中学校区	112	11.9%
無回答	47	5.0%
合計	945	100.0%



問 24 その他
○防災ラジオの存在は、本アンケートで初めて知ったが、高額のような気がする。○学校、企業、公共交通機関等、それぞれの特性に応じた、有識者による減災教育を公的に推進すべき○居住地域の特徴から災害発生時の火災延焼対策に関心がある。○問17にも記載したが、出張型の救急救命講習があれば受講したい。
・やろうやろうと思いつながら、対策を全くしていないので、防災ラジオを購入すること、水や食料の備蓄対策をまずはしようと思います。家族でも話し合いを持ち、いざという時できるだけ困ることのないようにしておきたいです。
・ライフラインが止まった時の対策を最優先して欲しいと思う ・災害時、自分ではどうしようもなくなった時、頼れる人がいない場合、なんでも即対応し助けてくれる所はどこなのか。以前台風で困った時、警察に頼んだが、相手にされなかった。そういったことをあらかじめ周知して言えば心配はなくなる。
・安城市はもっと全市民に地震対策や防災、訓練等を充実させる必要があると思う。
・災害が万一あったら、大人二人家族のため、地域のお役に立てると思うが、その地域活動には参加したことがない。・各家庭での備えが一番。食料などの備蓄はもちろん、避難経路を知ること、自宅から火災災害を出さないことなど、とにかく市民がかしこなるような啓発が大切。・中部東海は危険と言われてから久しいが、大きな災害がないのに、身近なことととらえることが難しい。
・支援や指示を待つのではなく、食料や水の備蓄、避難場所や集合場所の確認、家族での安否確認方法の手段などを徹底するよう啓蒙してほしいです。何をなすべきか確認しておくことで、減災につながると思います。・正確な情報が得られるように整備してほしいと思います。
・私が知らないだけかもしれないですが、対策、備え、制度、施策などが書かれた1冊の本とかあれば良いかなと思います。・地域によって取り組みが違う。
・私はマンションの住みですが、人とお話しすることは殆どありません。他県の方が殆どで、この地域のしきたりとか、何が備わっているのか解らない。・年齢が高いので通信、回覧があっても、読んで知らなければならぬ。・・・となると“めんどくさい”“理解出来ない”“動きは鈍い”どうしたらいいんですかね。・老人に出来ることがあれば災害予防も参加出来るでしょうか。
・自宅の想定被害のシミュレーション(想定震度 MAX)と対応プログラムの作成指導・地域ごとの減災体制の充実 1.パケツリレー対応用の「小防火用水」設置 2.救助用の工具小屋の充実(バール、ジャッキ、ロープ等) 3.近くのコンビニとの連絡・調整のルール作り
・実際自分たちがどう行動するか、住んでいるマンションで自主避難した場合と、学校などへいった場合のシミュレーションを知りたい。・夏場と冬場では、避難場所の密集度も違い、衛生面の取り組み方は？・ペットを飼っている人たちは車の中で避難する人たちも多いそうですが、学校のグラウンドにもかざりがあるし、物資を運ぶ車両の邪魔にもなりかねない、その対応は？・マンションで自主防災のための備品に(工具や仮設トイレ・無線)などの購入に助成はありますか？
・消防団の強化・道路整備・狭い場所へも侵入できる重機の導入
・総合防災訓練の参加率を上げる取り組み。→緊張感を持って、防災意識を高め、いざと言う時に混乱しない為に、必要性が高いと思う。・外国人対応→情報弱者で生活基盤が弱い為、支援が必要。思わぬ混乱を未然に防ぐ為に必要。・防災放送の整備(あるなら活用の向上)→防災ラジオの普及率が高いと思えない。スマホで情報が入手できる人は良いが、高齢者などでは難しい。集落に放送(スピーカー)で情報発信する事を検討して欲しい。旅行で他地域に行くと、市役所等の広報が聞こえてくるが、安城市内でそういう事をしていないと思えない。違うなら、もっと活用して欲しい。以上。
・中学校毎の避難訓練は行っていますが、もっと小さい町内会毎の避難訓練は行っていない所もあります。やりやすい方法を教えてほしいと思います。楽しみながら、子供も年寄りも集まったらいいと思います。
・冬に災害が起こって避難場所に行った際、どれくらいの防寒対策をしたら解らない為、避難所でお泊り訓練をしてりするのも良いのではないかと。・障害者が避難所に行けず、点在していても、情報が入ってくるシステム作りをしてほしい。(発達障害が有る場合は特に大勢の人が集まっているところに避難させるのはパニックになる元なので、避難できない)
・道路の整備・避難所の物資の準備(医薬品・毛布・など食料品以外の消耗品)・防災ハンドブック(非常時に準備しておく必要物品、各種連絡先(病院、役所関係)奥羽急所地の方法など・・・)わかりやすく記載してあるマニュアルの作成
・妊婦や乳幼児をもつ家庭が避難所で過ごす場合、配慮してもらいたいことがいくつか出てくると思われるが、具体的にどのような取り組みなら妊婦、乳幼児家庭(要援護者としての括りでいいと思うので)への支援を専門とするスタッフがいてもらえたら心強い。・東京都が発行している防災ブックのようなものがでてきたら、より防災への意識が高まると感じる。
・避難場所となる建物の更なる耐震性アップと水、食料等の備蓄の充実 ・町内の組単位の防災訓練を充実させる。無関心の人が多いので方法に課題がある。
1 消火器の無料設置 2 災害時の飲水(ペットボトル)配給。(場所 etc.) 3 地震での窓ガラス割れ飛散防止。修理の無料化 4 高齢者の為の救助訪問

問 24 その他
1、大地震発生時道路が使用できなくなる為怪我をされた人の移動が出来る様一考されたし。又、宅路が使用できる場所の確保を各町内をお願いしたい。2、道路の使用が出来る様、重機の確保を一考願います。
①住吉町内のコンビニ店に AED の設置をしていただくと24時間利用できるので安心、安全に生活できる。②消防団員の加入年齢をもう少し高齢化されても入団できると思うが。
3年位前、市役所の二階で耐震改修補助金を利用して地震改修工事の説明を聞くため事前に申し込み指定日に住宅耐震診断書を持参の上説明を聞きましたが、何の連絡もなかった。互いの疎通がとれていない様に思います。
アパートに住んでいます。町内会で行われている防災の取り組みや災害が起きた時の避難場所など知りませんしわかりません。(情報が少ない)会報(月2回)が市から発行されるのでそれで情報を得るしかありません。
アンケートがこまかくてよく理解できません。
アンケートの内容が複雑でよくわからないし多すぎる。
いつ、どこで起こるかかわからないので、例えば、学校、職場、乗り物(バス、電車、自家用車)、買い物中などに行っている場合、どうしたらよいのか。誰の指示に従ったら良いかなど、少し具体的にしてほしい。冊子でもよいです。学校や職場などは訓練をしているのでしょうか。
いつもテレビで気になってます
ガス台の横に消火器は常に置いてイザという時に使用する様にしています。常に風呂水は捨てないでいます。
このアンケートで何を知らうとしているのか 問 13 は必要ですか？アンケート結果はどのように分類するのか？ただアンケートしただけになると思う。アンケートに対する行動成果を明確にしてください。
なにがいきますか、食料品の確保ですか？
ペットの対応は？高層マンションに住んでいる方の避難経路は？川沿いの地盤は大丈夫か？鉄塔の耐震性は大丈夫か？
ペットを飼っている人の避難所の確保
まず、避難所の充実を図って欲しいです。特にプライベートの確保。自主的な防災意識を高められるような派手で楽しい「防災フェスタ」を開催して下さい。ただし、消防団の充実は防災には無駄になると考えます。なぜなら、酒代や飲み会代に消えるだけだからです。それならもっと他の防災意識に予算を使った方がよほど有効です。
マンションの防災訓練が実施されていない。
安城は公園が多いのでそれを災害時に生かせるとうい。普段からBBQが出来る様にしとけば、いざって時に炊事ができる。
安城市が行っている防災対策の情報が伝わってこないので防災訓練などの情報はもっと宣伝したほうが良いと思う。
安城市には市外、県外から多くの人々が来ています。その人達も一時的に避難できる場所を考えて、表示できるようにしてください。
安城市は、比較的災害の少ない地域であり、その中では心配されるのは地震です。防災対策については、地震への備えが中心となる。安城市におかれでは、予防もさることながら、万一発生して大きな被害が出て、避難市民が多く出た場合にその後の生活をいかに確保するかを特に念頭において頂きたい。
安城市内にある古い住宅(居住者なし)の早期撤去することが、防災時の被害拡大を防止すると思うので、できる限り早く実施すべきと思う。
安城市内の基幹病院(更生病院や八千代病院)との連携も必要ではないか。災害時に病院に人があふれ、病院の機能が果たせない可能性があるのではないか。
以前住んでいた地域で、公共放送がありました。電柱の様な柱にスピーカーがあり、そこから情報提供がされておりました。災害時以外では不審者情報や行方不明者情報、光化学スモッグ注意報なども放送されておりました。意外に有効な手段だと感じました。
茨城に息子家族がいます。3.11 の時はライフラインが復活するのに1カ月以上かかったらしいのですが、ご近所の人達と助け合い絆が強くなり、譲り合う、いたわり合う事と、当時、中学生と小学生だった孫も自立精神が育ったと聞き、何と言っても嫁のたくましいこと、大らかさに家族がどれほど支えられた事かと感動させました。天災はさけられないものと受け止め、自分にできる事で助け合っていければと思います。
家の近くで粘土を広い範囲でシャベルカー等で掘っているが地震の時間問題は？
家具、家電購入時に転倒防止(固定)対策のついたサービスをセットして(有料)もらえるとありがたい。引越しの時に同じようなことが言えます。(車のリサイクル券と一緒に売っているのと同じようなこと)
我が家には、犬が2匹います。普段から、ゲージでの待機や、ペットフードの備蓄など、気になる事は、取り組むようにしていますが、非常時にどのような扱いになるのか、不安もあります。
外国人に対する専門ボランティア育成 英語、ポルトガル語、中国語での現場の対応を強化してあげてください。
危機管理課から封書が届きました。アンケート記載をお願いするのであれば、アンケート同封など主旨を明確にするべきではないですか？何の危機管理を行っているかは知りませんが、地震対策を連想させる名前ではないで

問 24 その他
す。受け取った時は大変不愉快な気持ちになりました。
巨大地震がいつきてもおかしくないと言われて、恐怖感が増すばかりですが、対応できる準備があれば多少は安心できると思います。早い人命救助には、近隣住民の助け合いが一番大切。過去の具体的な例を参考に、良い方法を取り入れていくのが良いのではないのでしょうか。
近くに川があるので、堤防の強化をお願いします。
係の皆様御苦勞様
現在行っている事で充分と思います。
公共トイレの拡充、特に屋上に貯水タンクを設置
効果的な取り組みと聞かれましても幸いにも災害には直接、間接遭っておりませんのでわかりません。
効果的取り組み意見ではなく、申し訳ありませんが、自宅がほぼ高浜市よりにありまして、震災の際に東日本大震災のように津波が起きた場合、近所には高い建物がなかったり、あっても(パールライス工場)そこには登れない状態です。常に津波がおきたらどうしようと考えています。何か効率的な意見はありませんか。浮き輪を準備しておくとかは考えてますけどまだ準備してません。
高浜市の防災訓練において大変参考に出来る事があります。・すべて安全に避難できたという「しるし」として、玄関ポストにタオルを下げるという事をされています。このシンプルな安全確認は、安城市でも通常誰もが行う事にしてほしいです。
高齢者、病人という弱者である為にまだ社会に貢献したいという気持ちとは裏腹に実行力が伴いません。若い人たちの足かせになりたくないと思うばかりです。夫婦共に真面目に働き、長い期間しっかりと税金を納めた自負があります。その血税を正しく、有効に使って頂きたいです。
今までの教訓を生かす活動、いざ震災にあった時への対応訓練の実践、各自の備えのあり方のチェックフォロー気付きの防災(予知)、自然現象の変化、国内の北、南の発生状況のパターン、火山の噴火の特異性、順番、気象現象の変化、雲の形、方向、まわりの動物行動・・・ ああ。あの時に・・・。情報(天気予報、感覚で当たり外れ)の連絡システム化、共有→ 本部から予報につなげるあくまでも予報→緊急地震速報 etc 一室のみ、震災防護室を備えるをPR、実践させる 備えを水、食品も賞味(消費期限を生活パターンでUPする)工夫・・・実行・・・レベルUPして生かす。
今回のアンケート調査を頂いたことをきっかけに、我が家の防災対策について考え、話し合いを持ちました。備蓄品をチェックすると、水も食料もまだまだ不十分だと思い、早速買い足しました。改めて防災について見直すきっかけを頂きありがとうございました。備蓄品は揃っても、最後は近隣住民の助け合いが大切だと思います。安城へ来てまだ2年足らずの私は、地域のつながりがなくて、いざ災害が起きて避難所生活となると、家族以外頼る人もなく不安です。独居老人だけでなく、若者の単身世帯や子供のいない世帯も地域とのつながりが薄く情報が入りにくい環境にあります。避難所となる小中学校を年に一度でも開放して避難所生活体験ができればと思います。市に頼るだけでなく、私たち市民も自分でできる事は自分でしますので、個人ではどうしようもない事(ライフラインの整備等)を公共の力で進めていただければと思います。
今心配なのは、避難の場所に何人収容できるか?が気になっています。又町内で、話し合って、会を開きたいと思います。
災害が起きた時、町内会単位での防災対策の有無で被害の大小が変わってくると思います。市がもっと町内会への防災を促して欲しいと思います。
災害後の治安の悪化
災害時、とても多くの人々が避難所へ集まるため、情報の違いや、自己中心的な人が出てきて、冷静を保てなくなる人がいるはず。私の考えは、災害が発生＝避難所へ行くよりも、家にいて、家族の安否確認が出来たなら広い公園へ行くとか家の前にいるとかしたほうがいいのかと思う。落ち着いてから避難所へ行けばいいと思う。
災害時は誰も頭が混乱して冷静に考えられなくなったり出先で家にいたら分ることと解らないことが出てくると思うので、常に携帯できる安城市の災害時の色んなことが凝縮してミニ冊子を作って配ってほしい。子供たちにもランドセルに入れさせたい(各種連絡(重要な所)、避難先、こんな時どうするの1～10、持ち出しチェック表など)
災害時火事を出さない。
災害等はいつ、どこで、どんな形でくるのかわからないが、災害や防災対策などはよくわからない。市に任せるより方法がない(県、国等)
作野小学校地域はもと池のため、液状化が起こりうるため避難場所には不向きと思われる
三河地震、昭和東南海地震で起きた事をもっと若い方、とくに学生さんに理解と、地震になった時、何をしたらよいかの教育は大切と思います。
子供の頃からの防災への訓練や指導がとても大切で、町内運動会を防災運動会と一緒にしたり、学校の運動会にも、競技に取り入れると大人も子供も良い訓練にも経験にもつながると思います。(数か所)避難場所までの経路を確認しながらウォーキングラリーを町内でするのも大事。
子供の頃三ヶ根の近くに住んでいまして家は全壊して竹やぶの中で生活したことを昨日のように思い出します。今

問 24 その他
住んでいる所は住宅地で竹やぶもなく、学校に避難するしかないと思います。いつもは1人住まいなのに大勢の人の中に何日もいるのはストレスがピークに達すると思います。
子供や老人の人たちの心のケアを出来る方 精神的なものはなかなかケア出来ないかと思ひます。
市街化調整区域の土地ばかりで戸建ての家が、既存の小さな土地にごみごみと建ち過ぎている。耐震も大切ですが、過密地域の解消で災害を減らすことも考えて欲しい。
市民全員が知っておくべき防災情報については、出席必須のセミナー等を開き、参加してもらわなければならないと思う。無知が一番こわいので、最低限の情報は、全市民が共通しても持っておいたほうが良いと思う。
私が今実行している事は、電気ストーブを使用したら必ずコンセントを抜く という事です。
私の家は自分が障がい者で歩行困難で母親も高齢で歩行困難なので、災害時に移動困難なので、そういった災害弱者のいる世帯に対しては個別に災害時の対応の事前相談を市の方から派遣して説明や相談対応してほしい。
私の子供は難病を患っている為、毎日薬を服用しています。通院している病院は大府市にある為、震災の時には病院まで行けないと思います。避難している時に薬がなくなってしまう事、免疫力が弱い為、避難所で感染症にかかってしまう事が恐いです。病気を持っている人、薬が必要な人の避難所を用意していただけると助かります。
私の住んでいる住宅地も、高齢者の一人暮らしが大変多く、又、老々介護に近い状態の方々も多く暮らしています。私も同類です。地域で催される行事にはなるべく参加していますが、何かあった時は、即死がよいと夫婦共々思っています。七十才を過ぎた高齢者は、もう十分に生きたと思います。私たちを支えてくれる子供や、心をいやしてくれる孫たちが安心して暮らせる行政をお願いします。
私は79歳になりますが今までに一度もこわい思いをした事が有りませんので実感がわかりません
私自身もそうですが、実際の防災対策と言っても最低限の水、食、住環境等、家族の安否等で自分が被害もなく動ける状態なら率先して手助けしたいと思ひますが、何をどうすべきかと、なにも起こっていない時というのは、冷静に判断できても実際のところどうだろうと不安に思ひます。できれば、うまく説明できませんが、どこでも情報が閲覧できると再浸透するのではないかと思ひます。耳の不自由な人には解りやすい電光掲示板に緊急を知らせられるかとか、目の不自由な方や体の不自由な方への隣人の協力で知らせる方法とか、あるかもしれませんが、誰でも何人とか対応できる体制は必要かと思ひます。たとえば電光掲示板へ、緊急性のある事を伝えて、確認でき、助け合うこともできるのではないかと思ひます。参加できていない私は反省点が多いのですが、すみません。
自営のためと主人が病気のため自由な時間がとれずなにも参加、協力、いろいろ出来ませんでしたでしたが主人も死亡、自営も娘にまかせ少し自由な時間が出来て来ましたので今後、参加、協力、勉強をしたいと思ひます。
自宅は築70年以上で耐震基準に発していないため巨大地震が起きた時には倒壊間違いないと思ひます。そのため水等の備蓄品の保管場所にも困り、又、意欲もわかりません。
自分も含め地震対策に関心が薄いと思ひます。東日本大震災の状況を見て恐いとか大変だとか感じていてもこの地域に本当に大震災が来るかもしれないと常に思っている人は少ないような気がします。もう少し地震対策に関心が持てるように呼びかけていただけるとよいかと思ひます。自宅で水や食料、避難具を用意することなどは自分で出来るので、それ以外のことで本当に地震が来た時に困らないよう、対策を考えていただけるといいなと思ひます。
自分勝手な人が多いので、市がどんなに対策を考えたところで、うまく行かないと思ひます。
実家が名古屋で、私が小学生の頃から「東海地震が起きる」と繰り返し言われ、学校で訓練を受けてきた(s40年代から)。こちらの安城ではあまり、そうした緊張感がない様に見える。自治体が、ハザードマップ等作ってもっと宣伝しないと生かすきれないように感じる。残念。頑張るってよりよき環境にして行きましょう。
実際に地震が起きたら、何をすればよいか全く分からないので、近所の人達が話し合いできる場を作って欲しいです。
実際の大規模な訓練を行うこと。
実施済みとは思ひますが実災害地の方々の意見、取り組み等具体例の実態調査など。(現地現物確認)
住宅の太陽光発電・蓄電池などの補助金制度の充実、環境対策だけでなく、災害時の対策においても必要だと思ひます。戸建住宅だけでなく集合住宅への太陽光発電の促進も必要だと思ひます。エコキュートなどの貯水タンクが、水の備蓄に有効であることも、広く伝えて頂きたいです。
住宅密集地で同巾 2mくらいなのに消防車、救急車も入れないのに家や、フェンス、樹木を市道ぎりぎりの作ったり、木は道に出て車のバックミラー倒さないと通れない、近所の人なので、注意もできない。道路を広くするなり、中心線から2m離れて家、倉庫などはひかえて建てるよう、もっと注意するなりチラシ、広報に出してほしい。
小さい子供がいるので、災害時にまずどのように動けばよいか、子供たちの体のケア、心のケアについて不安があります。
小生 80 才を超えておりますので、若い時のように参りませんが、体調が良ければ、何らかのお役に立てることを願っております。(65 才までは保健所で勤務したことがあります。)
昭和 69 年に建設した家ですが娘たちが耐震補強工事(診断)をしてほしいと申しております。孫4人を預かっておりますので、不安もあります。診断をお願いする方がよく分かりません。

問 24 その他
職場で年1回防災訓練を実施しているが、現実感がなく、実際に役に立つのかと考えたくなる。特に中小の企業には人を派遣して啓蒙を行ったらどうか。
色々な考えの人がいて、実際に地震が起きたらどうなるかわからないが、家族を守るためにできる準備や心構えはしておこうと思います。とりあえず、こういうアンケートが来たことで身近にいる人達に声をかけたいと思います(話題にする)。
水 食糧 風呂 衣類
数年前に新聞の地震に関する記事で、名古屋市熱田区に住んでいる人が太い柱を使って家を建てたのですが地盤が軟弱で倒壊してしまったそうです。私どもがそうですので建物の[補強をしても効果が有るのかな]と考えてしまいました。既設建物の補強方法などアドバイスがあればと思います。以上
正直、自分自身、防災についての考えは学生の頃からしか知らなくて、そんな人たち(今は大丈夫と思っている人や関心がない人)が今は多いし、安城などの田舎はとくに高齢者が多いので、もっと関心を持ったり、みんなが危険にさらされていることがあるかもしれないということを知って分かってくれるような活動をもっとした方がいいと思います。具体的なことはちょっと分からないですけど・・・。
生活に身近な場所で防災、減災の広報を充実させる地域にあるスーパーや銀行、お寺、飲食店など
先日、NHKの番組で阪神淡路大震災の番組を見ました。助かる命が助けられなかったという内容でした。大地震の後、電気が復旧した時に、あちらこちらから火災が起きたという事実でした。地震でなく火災死でした。ほとんどの家庭がブレーカーを落とすことなく復旧と同時に火事が起きたという事を学びました。ビックリしました。とても大事なことです。今度、組の集まりがあった時に話をしたいと思いました。ですが自分だけが気をつけても意味がありません。地域の方々が皆、大地震が起こったらブレーカーを切るという事を認識しないと阪神の二の舞です。感震ブレーカーを全家庭に義務づける事は出来ないでしょうか？ホームセンターでPRするとか・・・市が半分負担してくれたら、皆買ってくれるでしょうか・・・。私は安城市が大好きなので火災が起こらない事を願います。よろしく願いします。
全ての病院(歯科等も含め)が病人、ケガ人を受け入れる様にしてもらいたい。せめて応急処置だけでも出来るようにすることが必要とおもう。
組に入っていないため町内会からの回覧板が回ってきません。防災訓練も当日町内の放送で知ることになり急には参加できません。こういう状況で防災、、といわれても、、
太陽光の夜間電気の備蓄をふやしてほしいです。
対策の取られていない家庭への教育応援・資料配布・消火器等の購入
大きな地震が起きた時、様々な対応が必要となると思います。市、県、国の公の機関が担う事柄・市民が連携・協力して担う事柄、そして各自の自己責任において各々が担う事柄が考えられると思います。ただそれら全てに充分に対応がしてもらえるかどうかという不安を持つのは様々な意味合いによる生活弱者の方たちだと思います。想像を絶する混乱の中で、対応がなされないままになることがないよう事前に想定される状況を出来る限り調べ、対策をたて、組織化した対応にまでもって行ってほしいと思います。私自身これからは高齢者の枠が近くなり、体調も病気でまではいかないまでも不調が多く、地震後の医療が十分に受けられるのか、という心配は今から感じています。また救護所等が遠く、歩きでなければ行けない場合の難しさも感じます。集団での避難所での生活も体調面から考えて自分には無理と思えます。そのため、自力での生活をできるだけ営めるように備蓄には心掛け、1週間～10日の準備はしてあります。ただ、それが本当にできるかどうか・・・できるようにするために準備しておくことは何なのか、知りたいと思っています。情報発信をお願い致します！！
大地震に対して防災・減災の町内会での委員会を設置(指導員等)、その指導員が町内の防災・減殺に向けて指導や独り暮らしの方への援助、改善を指導する。
大地震の周期は150年ぐらいあるので1944年の南海地震より数えて100年にもならないので今後50年位は大地震はないと考えています。
知らない事がたくさんあると思った。防災訓練など、もっと積極的に参加したい。
地震が来たらまず近所の方々と連絡第一だと思う。日頃の交流が大切だと思います。
地震など私自身も他人の様な考えが少しあります。又、耐震などしなくてはいけないと思いつつ、お金の面でも不安ですし、今は自身が来ない事を祈るしかありません。一時、食料品の備蓄もしましたが、又元の様に戻ってしまい、水が用意してあるだけです。
地震に対して不安です。1人で生活していますのでもうすぐ70才になりますので、対策のしようがありません。
地震対策+台風・地震の河川の被害。私たちは矢作川流域に住んでいますので、水害も2分する取り組みがあります。
地震対策に関連する制度、施策について1家庭1部まとめて配って欲しい。地域で常時地元にいる若い人のリーダーとして活動できる人を育てる育成支援を求めます。
中学生 高校生が各町内会の実施する防災訓練に参加出来る様に学校側の積極的な協力が必要
町内会、組、班単位での防災訓練の実施(年1回位、必要と思う)(安城市は津波の心配はないと思うが、地震発生

問 24 その他
は突発的であると思うので、訓練は必要)家具の転倒防止、耐震化促進のためのPRや補助制度の充実
町内会の一人住まいで身体の不自由な更年期障害の方の救助と対策の充実。
町内単位で防災のシステムを回覧板等で配布して欲しい!
賃貸マンションのため、家具の固定ができません。マンションを傷つけずにできる固定や、被害が軽減できるような方法があれば展開してほしいです。
定期的に避難経路を記載したチラシが各家庭に届くようにする
東海地震については、震度も「6強」程度なので、あまり心配していない。なぜなら、概ね、横ゆれであること、と現在の住宅ではほとんど壊れる事はないと思うから。それよりも直下型地震のほうが怖い。縦揺れは建物も防ぎ様がないからである。基本的には災害は自分で守るという意識が大切かと思う。行政にはあまり期待していない。
東日本大震災の時に、関東に住んでおりました。地震自体の被害もありましたが、その後に起きた計画停電が、とても不便でした。また、原発から遠い場所にもかかわらず、ホットスポットとなってしまう、普通に生活しつつも、不安を感じていました。安城は農地が多いので、もしそうなる対応が大変かと思えます。具体的な取り組みはあげられませんが、長く安心して安城で暮らせるよう、対策をおねがいします。
同じ町内会の人同志でも顔も知らなかったり家族構成も知らなかったりで、助け合いが出来るかどうか不安に思う。防災訓練に参加してもいつも同じメンバーだったり……中学生や小学生が成長していけば、とても力になると思うので、学校と一緒に地域での防災訓練に学校行事として参加させてほしい。
道路が混み避難所に入にもせまいので分かりにくい様な信号もないし、入口に色でも(道路に塗るとパツとしていい様な)分かりやすい気がします。スーパー入口もあるので、今でも込み合い出るにも時間がかかる。
特になし
特に三河地方は、車社会です。電気がストップした場合の交差点での(信号機の停止で)通行、障害の対する市の考え方を周知。(渋滞)混乱が予想される。スムーズな通行の確保。
日ごろから地震対策を心がけて生活しなくてはいけないと思う。市の広報などで特集を組んで知らせて頂くことはとても参考になっている。ラジオの時々テスト放送を聞くと、よい対策のひとつとも思う。今後も市民への危機感を持たせてくださる取り組みは続けて頂きたいと思う。
年1回の防災訓練実施でなく、毎月1回の実施が効果的です。年1回で対応出来ます?
年に1度町内の防災訓練があります。それ以外に防災について何にもないと思います。町内の各総会など皆様が集合するその様な時にでも防災について関心を持っていただければ、と思います。
避難経路を実際に歩いてみるイベントや、避難場所の施設を公開するイベント等があると良いと思います。各家庭でもできることですが、なかなか自発的にやらないので。
避難所となれる施設の充実と障害者も避難所へ入れない人に対する配慮等できるようにしてほしいと思います。避難所にどのくらいの人が入れるのか具体的な人数の把握等をしてあると思うが、住人にも知らせてほしい。仮設トイレ等もどのくらいいるのか把握されていると思うが、パニック状況になった時避難所での生活が想像できないので実際の体験した例を学習する場があったらいいと思います。
避難所に乳児や幼児専用の場所があると泣き声や授乳時に気をつかうことが減るのではないかと思います。
避難場所、避難経路の訓練など自由参加ではなく、強制参加にした方がいざとなった時役立つと思います。
避難場所が中部小学校なので、中部小学校へ通っている子供にはその場に残るように伝えてありますが、不安になって勝手に一人で家に帰ってきてしまわないか心配しています。災害時は親への引き渡しということになっていますが大混乱時も24時間、何日間も親が迎えに行くまで子供を見ていてくれるものなのでしょうか。
避難場所になる小学校の体育館に太陽光発電と床暖房を入れてはいかがでしょうか?小学校の行事や集会でも使えるし冬に避難する時に暖かいです。
避難中、家を空けている時の空き巣や、町内全員で避難しているにも関わらず、あやしい人物(達)がうろろしているなどの犯罪対策がどの様に行われるか気になります。(報道などで「〇〇町全域避難中……」と聞けば狙っている人達には都合のよい情報となりうるので。
病院に通じる道路の2車線化(例 更生病院等)
別にありません
補助金についてもっとPRしたら?取る金は何も言わなくても通知(催促)までするくせに、配る金は、制度作って広報でチラッと掲載して終わり。年寄りだけの家計もあるから出向いてPRするくらいの情熱ないの?市役所も民営化だな このアンケートもどうせ反映されないから紙代のムダ、ネットにしたら?いや、人件費(税金)のムダだな。
防災、地震の備えは意外と「行政」「地域」「学校」が「やってくれているものだ」と思いがち。でも、現実は何もかも行政に頼っていたら、本当に困っている高齢者、乳児、妊産婦、障がい者の行き届かない。共働きでいくら忙しくても、小、中学生をかかえていても、動ける人は助ける人にならないと!(東日本大震災もそうだった)まずは「自分の身は自分で守る」「食料など1週間分各家庭が用意」を浸透させた方がいい。今、不自由なく生活している人は、「本当に困ったとき」どうしていいかわからなくなり、避難所へ行けば何とかかなと軽い考えをしているはず……
防災、防災と言われますが、関係の役職におられる人は熱心でしょうが、ちまちまと日々を送っている人には関心

問 24 その他
<p>が一切ありません。又、建前は立派に言われますが、実際その場面に直面するとほんとに役立つのでしょうか？疑問です。</p>
<p>防災に関するマップ類を各家庭のポストに投函していただけるとありがたいと思いました。</p>
<p>防災に関する関心が深まって、自分達の住んでいる町内会を中心に度々の自主防災訓練を多く取り組むことが大切だと思う。市全体の大きなものではなく、「個」が何度か参加することが大事・・・そのためにはまず自分達の住んでいる町内に重点を置き防災の意識を高めていけたら、いいのではないかな？やはり身近なところから何度も参加できることがよいと思う。町内会から里地区、安城市全体とつなげていけばよいと思う。関心を持って貰うようにする。市から度々防災の話の話を聞かせていただけたらよいと思う。横のつながりを作ってゆく。</p>
<p>防災に関する考えについて記します。以前東北大地震の避難所の様子をビデオを用いた講習会で見たことがあります。避難所で赤ちゃんが泣くと「うるさい」というどなり声がひびき、母親は寒い中外で赤ちゃんをあやしているという光景です。私どもにも自閉症の障害児がいます。昨年の8月頃朝の6:30頃に窓を開けて多少さわいでしまったのですが、その時近隣の40才ぐらいの男性が「うるさい静かにしろ」と障害児に向かってどなりちらしました。私どもはそのことに気づかず朝からチャイムが鳴るので何事かと思ってインターホンを取ると、「うるさい静かにさせろ」と怒鳴られ、玄関を開けて外に出て謝罪したところ、「近所はみんなうるさいと思っている。静かにさせろ」と怒鳴られました。その男性は朝の4:30ぐらいからランニングを毎日しているところを見かけるのですが、どなってやろうと待ち構えていたようです。また他日「このバカな子がうるさい」と私どもの家の前で大声をあげる等をしました。御本人の考えでは、障害児は馬鹿、馬鹿は静かにしてろという事のようにです。こういう暴力行為がおこったので、町内会長に相談しても近隣トラブルは感知しない。市役所で相談しても近隣トラブルはということ。平常の状態でごうのですから災害がもし起こってストレスが高まった状態ではどうなるかだいたい予想がつかますので心配でたまりません。</p>
<p>防災のために、今具体的に何を準備しておくべきか、災害が起こったらどう行動すべきか。市としてどのようなサポートを住民に行うのかなどのガイドブックのような冊子が各家庭に1冊あるとよい。広報で逐一の情報提供であると、保存しておかないため、結局、まとまった情報が残らない。ウェブサイトでも見る機会が少ないと思われる。これはいつでも手にとれるように置いておこうと思う冊子があるとよい(分厚すぎないもの)。</p>
<p>防災の意識を高めるために下記の2点の取り組みを提案します。①市内全校、小学校、中学校の運動会、体育祭で1～2種目の防災に関する競技の実施 ②安城町内別対抗防災競技大会の実施(例)安城シティマラソン大会の日に午後より陸上競技場で小学校中学校10代20代30代40代50代以上男女混合で1チーム(町内1チームで辞任の少ない町は2～3合同)2～3種目で競い、1位～2位～3位町で表彰 ①②の種目は専門家に決めてもらう。②の1チームの年代別の人員、日程は別途考慮</p>
<p>防災拠点として、公共施設とは別に一般民間施設(スーパー大型建造物)にも防災拠点として耐震避難地として組み入れ、水、食料、衣料、医療の責任を担っていただき、今後の防災活動の支援の場所として広く一般の人も受け入れるよう指導して頂けたら良いのではないのでしょうか。安心感が増します。その時地域に(町内に3～4拠点地域の人を受け入れる体制があるといいのですが)地震の時は門戸を開き受け入れるようなご指導いただけたらと思います。</p>
<p>防災対策として、最低でも水、食料、衣料等準備する物を簡単に理解できる資料、パンフレット等市で発行して欲しい。</p>
<p>本人は4年前から病床にて読み書きが困難のため代理にてお答え致します。</p>
<p>万が一、被災した時には、近所の方々と助け合いながら過ごすことになると思う。互いに困っていることを気遣い、助け合えるように、日頃からあいさつをかわし、家族のことも知ってもらえる仲になってほしいと思います。家族間でも時々安否の情報、避難所の確認など、地震の話題を出し、話し合っておく必要が大切だなと感じています。今後行って行こうと考えています。</p>
<p>問 17 でも書いたが、本来はその家族が作るべき基本事項(どこへ避難するとか、、等)を書けるボードを配布して家族が見える様にしたい。常に注意出来ると思う。ラミネート加工などでしっかりした物を作って頂くと助かるが。(自分が作るべきと思いますが、、)町内会の取り組みに参加→家族にまでは説明できていない。家族内での話し合いはしているが、避難場所等→とっさだと忘れてしまう場合あり。常に目に付く所へ置いておく。</p>
<p>問22の23と24に関係することで我町内は公共施設、避難所といえれば、公民館になると思います。電気は、多分、基本的には町内会費から支払いをしていると思います。そこで、たとえば、災害時だけでなく、常時町内での活動、電気使用に太陽光発電等の設備を利用して欲しいと思います。各町内会の建物に町内会の希望があればですが、市に発電設備を設置していただき、災害時等に電気を自給自足できるようにすると良いと思います。</p>
<p>有効期限の近い水など格安で販売する機会があれば、有難い。我が家は、天然水を備蓄しつつ使用しております。無料でいただくこともありますが、格安で手に入れば、多く購入できるからです。</p>
<p>両親とも勤め先が市外(遠方)であり、災害時には帰宅困難になる可能性が高いです。子供2人は保育園、小学校ですが、災害時にすぐかけつけることが出来ません。また、近くに頼れる嶺もありません。こうした状況下では、皆が自分の事で手一杯になるかと思っています。災害時に子供たちが安全な場所に避難できるような制度(帰宅困難者の両親の子供を守る制度)があると助かります。</p>

■ 各設問の「その他」の内容

○問2 (21) その他 の内容

- ・ No.15 に関連するが避難所に収容しきれない場合における自宅に留まる人の支援方策
- ・ ペット
- ・ ペット(ねこ)のこと
- ・ ペットの避難所での受け入れ体制
- ・ 一戸築とマンションのちがひ、エレベーター、電気、非常階段など
- ・ 核発電装置の放射性物質、漏れ、遺伝子異常
- ・ 帰宅の困難
- ・ 自分(家族)の身の安全を確保し、無事逃げられるか。
- ・ 障がい者への情報展開
- ・ 長男に持病があり、朝、夕に服用している薬がある為、体調が悪化した時に避難所で対処できるか不安です。
- ・ 定期的に病院でもらっている薬がもらえなくなりそう
- ・ 避難後、留守の家への空き巣など。
- ・ 避難場所以外での避難時に対する物資の供給
- ・ 名古屋へ通勤しているため帰宅難民となり得る事

○問5 現在取り組んでいること の内容

- ・ (12)をぼちぼち行っている。耐震改修をやりたいが予算がない
- ・ 10)マンションに設置あり
- ・ 100V 自家発電電機設置、雨水貯水
- ・ マンション全体で災害訓練を一年に一回行っている。火災訓練も時々行っている、にげる時間、にげる通路、消火器の使い方ヘルメットの着用
- ・ リビングや普段いる所に家具など(高さのある)おかない
- ・ 飲料水の備蓄確保している(20 ペットボトル 6 ケース×10コ)
- ・ 飲料水は少し準備している。
- ・ 屋外倉庫(物置)に非常持ち出し品(食料・水)を確保
- ・ 家具の転倒防止
- ・ 家具の転倒防止を少し行ってる。全部やりたい。
- ・ 家族内の避難訓練を行いたいと思っている。
- ・ 火事が怖いのでお風呂以外は電化製品を使用
- ・ 携帯電話による災害情報の確認(KATCH にて)
- ・ 現在家具等の転倒防止を行っている。

- ・ 市からの防災ラジオあり
- ・ 飼っている犬の首輪に犬の名前と電話番号を書いてある。
- ・ 自家発電装置の設置
- ・ 車の生活用品は積んでいる
- ・ 車庫にトイレトーパー、ティッシュ、ガスコンロなどを置いている
- ・ 小さいランタンの準備
- ・ 少しはやっているが完璧ではない。
- ・ 寝てる部屋(和室)の家具は低いものを置いている
- ・ 水の確保、20L10 本用意している。
- ・ 制震パネル装備
- ・ 大型の充電池を設置している。
- ・ 炭やカセットコンロの購入、インスタントの食品の備蓄
- ・ 特になし
- ・ 背の高い家具はおいていない。
- ・ 発災時出勤する必要がある場合の移動手段の確保とルート確認
- ・ 発電機(携帯発電) テント寝袋(キャンプ用品) →用意済
- ・ 避難場所(桜林小)が低地であるし、避難経路が田畑の中で多分水につかると思えるので、避難ができない心配が多い。
- ・ 非常持ち出し品の準備
- ・ 非常食を貯えてある
- ・ 非常食料の使い方、レシピ
- ・ 防災訓練に参加しています。
- ・ 免震マンションへ引っ越し

○問6 (11)その他 の内容

- ・ 2つになる家具は平にしている
- ・ しっかりした柱がわからないから
- ・ すべての家具を行っていない為、今後残りを実施する予定。
- ・ タンスなど1部屋にまとめてあるから
- ・ つっぱり棒が店になかったもので、不安です。食器棚早くつけたいけど、店にないもので、気になってしょうがありません。
- ・ テレビの固定など、できることはやっている
- ・ まだ、一部しかできていない
- ・ まだそこまで考えていない。引っ越したばかりマンションだから
- ・ マンションで石膏ボードの内装のため固定できない。
- ・ やろうと思っているがあとまわしになっている
- ・ やろうやろうと思ってできていない
- ・ 一部は実施済
- ・ 一部のみ実施
- ・ 一部の家具は行っているが全ての家具の固

- 定を行っているわけではない
- 一部の部屋に実施済み(例)寝室等
- 一部は行っているが家中の家具全部は行っていない。
- 一部は実施したが、残りはその俣
- 一部行ってない家具がある
- 引っ越したばかりで、きちんと対策するために方法や箇所を検討中であるため
- 何をどこまでやるのかわからない タンス、食器棚、テレビ
- 家が古い(築 40 年)の為、床、壁などがもろくなっているため。
- 家でできる範囲では行っている
- 家具の転倒防止は行っています
- 家具の部屋が狭い
- 家具を移動するかもしれないから
- 見た目の悪化
- 固定するような大きな家具を置いていない。主に過ごす部屋、寝室に大きな家具を置いていない。
- 行っている家具(大きなもの)と行っていない家具(小さいもの)がある
- 行っている家具もあるけれど、すべてではないです。
- 高い家具がない
- 高さは 1m位又は 3m位の整理ダンスなど低めの物があり額など(遺影)はかけない様にしてている。
- 時に倒れる様な家具がないため。テレビは固定しないとイケないと思うけれど、やっていない。
- 時間的問題
- 上記No. 2, 3 が多いがNo. 1 になるように推進して行きたい。
- 世帯主の意向に従うため
- 全ては行っていない。できる部屋の家具を少しでだけやってある。
- 大きな家具がないから
- 低い家具しか置かないようにしているから
- 低い家具を購入している
- 天井の板が薄く、固定が無理なようです。
- 転倒するような背の高い家具を置いていない
- 転倒家具なし
- 転倒防止は自分で固定した。
- 倒れて特に困るものはないから
- 道路を塞ぐ場所に家具は置いてない。家具の高さが低い。衣類タンスはクローゼット内に置いている
- 背の高い家具がないので
- 背の高い家具はないから、ピアノはやりようがない
- 夫が同意しない

- 父による判断の為
- 部屋に大きい家具がない
- 壁の柱を探す工具を購入後行う予定
- 免震住宅に住んでいる。

○問7(6)その他 の内容

- 2~3 年後に新築予定
- 5年に1度家の外、内の点検をしています。
- その時にならないと理解出来ない。
- そろそろ建替えたいと思っているから。
- ぼちぼちやろうと思っている
- マンションが石膏ボードのため
- マンションだから
- マンションだから個人ではできない
- マンションであるが管理会社にまかせているから
- マンションなので
- マンションなので管理会社が行っている。
- マンションに住んでいる
- マンションのため
- マンションのため個々にはしていない
- マンションのため話し合いが必要
- マンションの為、勝手に改修できない
- 一応耐震の家になっているから
- 引っ越しの前段階だから
- 家の建替をする予定
- 家を建てて6年真四角の小さな家です
- 家を建て替えたい
- 家を建築したばかりだから
- 既に簡易耐震家屋のため
- 軽量鉄骨
- 建替を検討中のため
- 県営住宅だから
- 現在?検討してます。まだ不明
- 古いので基準に達していないと思うが、補修資金が心配だから。
- 古い家で大がかりになり、改装すれば家の中が暗くなり過ぎる。一応は(接続部の補強)は済んだ
- 古家で老いているのでこわれたら考える
- 時間的な余裕がない
- 集合住宅なのでよくわからない
- 集合住宅の為
- 重量鉄筋のため耐震作りと思っている
- 新築から 20 年で点検受け、見積りを頂き対策を行う予定にしています。
- 親にすべて任せているから
- 診断をしましたが、疑問が残った。その後外壁工事をやりました。その結果、かなりの強度がある気がしてます。
- 自分の家は大丈夫と思っている
- 対策を行うには余りにも直すところばかり

- ・ 耐震機能に優れていると思うから
- ・ 耐震住宅だから
- ・ 大丈夫のように建ててあると信じているので
- ・ 築10年なので必要がないと思っている
- ・ 築15年の木造平屋、べた基礎です。壁の多い、大きな窓の少ない構造だから、特に改めてしなくてよいと思う。
- ・ 築16年ですので、診断はしていません
- ・ 築年数がまだ浅いから
- ・ 築年数が多いため、耐震改修などを実施するならリフォームを考えることになる
- ・ 鉄骨造、地盤改良済
- ・ 転居を考えている
- ・ 特に必要ないと考えている。
- ・ 年代経験者で、特定項目の選定は難がある
- ・ 父による判断の為
- ・ 平成15年10月8日診断受けている。
- ・ 壁外側サイディングし補強できているから
- ・ 免震住宅です。
- ・ 寮だからよく分からない

○問9(8)その他 の内容

- ・ 安城市の防災ラジオ
- ・ 安城市防災課より(ラジオ)
- ・ 携帯
- ・ 携帯・スマホの災害メール
- ・ 携帯電話
- ・ 市の広報(?)などからたまに届いている資料など
- ・ 住人の全ての合意及び費用の徴収ができな
いと思う
- ・ 町内会の防災訓練で話を聞いた。
- ・ 防災ラジオ
- ・ 防災リーダー
- ・ 老人クラブ集会にて

○問10(10)その他 の内容

- ・ インターネットで海外からの情報を得る
- ・ 隣同士のよびかけ
- ・ 地域のJAの町内の放送による伝達
- ・ 電気が止まればインターネット、携帯、防災ラ
ジオ、電話不可、携帯ラジオのみ可
- ・ 老人ホームに入居しているので職員の指示を
待つ

○問11(9)その他 の内容

- ・ 給水場の情報(トイレ使用のため)
- ・ 原発事故発生有無。事故発生時の放射能汚
染度合
- ・ 備蓄品で毛布がたくさんありますか。寒い日も
あると思いますが
- ・ 不審な行動をする人物や団体。

○問13(4)その他 の内容

- ・ 遠方にいる親戚
- ・ 嫁に出た娘の家
- ・ 子供2人は静岡県と蒲郡市にいますが、平日と
土曜日は自分1人です。
- ・ 職場
- ・ 職場の人
- ・ 親族
- ・ 知人
- ・ 同じマンション内の友人、高齢者、女性
- ・ 同じ職場の方
- ・ 友人
- ・ 老人ホームに入居中で、発生時に頼れるの
は職員だが落ち着けば家族が無事ならば家
族と思う

○問14(5)その他 の内容

- ・ 3年前に町内の訓練に参加
- ・ 火災訓練のみ
- ・ 高齢者のつどい
- ・ 今年は参加していないが奉仕要員で何度か
参加している
- ・ 障害者で参加不能
- ・ 町内の役をうけもった時に参加
- ・ 通院先の1年1回の訓練に参加

○問15(8)その他 の内容

- ・ 1人では参加しづらいから
- ・ 1人で生活しているので、参加しても結局は1
人です。
- ・ 都合がつかなかった
- ・ まだ現実的に考えていないため
- ・ マンションでの避難訓練をしない!
- ・ 引っ越してきて、子育てや年子での出産など、
時間にゆとりがないため。
- ・ 引越したばかりだから
- ・ 引越しをして間もない為
- ・ 遠きより介護で忙しいから
- ・ 家族が参加した
- ・ 家族が参加しているから
- ・ 家族の代表1名が参加
- ・ 訓練等に出る余裕がないからです。
- ・ 現職の時に訓練の指導を行っていたから
- ・ 現役じゃない為(以前は職場でやった事アリ)
- ・ 妻の介護のため
- ・ 仕事
- ・ 子どもが小さいため
- ・ 子供が参加しているから
- ・ 子供が小さい為(未就園児もいる)
- ・ 主人が参加しているから。
- ・ 出産、育休の為(妻)
- ・ 小さな子供がいるから

- ・ 小さな子供がいるので(1歳)
- ・ 障害者(身体)の為
- ・ 身体障害者の為(左半身)
- ・ 足が不自由なため
- ・ 同居の義父が参加しているので、私は行かなくても良いかと思いました。
- ・ 歩行が困難のため
- ・ 防災活動を行っている組織をあまり身近に感じたことがない・・・つながりがあまりない
- ・ 旅行に行っていた

○問 16(7)その他 の内容

- ・ 6人家族なので家族に頼っております
- ・ 75才以上の老人のいる場所あってほしい
- ・ 炊き出し etc. 被災者同士でできること。
- ・ ひざ痛のため歩くことが難儀
- ・ 医師、看護師不足のとき市民でできる救助
- ・ 家族が参加しているから
- ・ 介護で活動できない
- ・ 近所で野焼をやめない人がいるので、野焼き撲滅に自治体で取り組んでくれる活動
- ・ 高齢にて参加出来ない
- ・ 高齢のため
- ・ 高齢のため、出来ない
- ・ 高齢気道的に参加が負荷
- ・ 高齢者だから(86才)
- ・ 自営のため土、日は休めない
- ・ 自分が住む集合住宅の防災訓練
- ・ 消火器がありますが長年使っていないので使えるか心配
- ・ 障がい者がいるため
- ・ 親子一緒に参加できる防災訓練
- ・ 炊き出し
- ・ 地域の人と助け合えるように顔みしりになれるような会
- ・ 地震発生の際、自宅から遠いので1人で歩いて行けない(73才)
- ・ 町内会の防災訓練
- ・ 動けない
- ・ 特にありません
- ・ 特になし
- ・ 年齢的に無理
- ・ 避難所設営、運営訓練、避難所での宿泊、非常食の試食
- ・ 避難場所での生活に不安がある。どんな感じになるのか詳しく知りたい。
- ・ 備蓄の上手なやり方と災害時と期限間近のケース別での備蓄品の有効利用方法
- ・ 病床の為め無理
- ・ 別になし
- ・ 別になし
- ・ 防災訓練に何度か参加しました。が「個」の確

保がないのであると助かります。トイレも大変ですので、出来るだけ多く設置できることを望みます。ペット同伴もして欲しい。

- ・ 老いているので何も出来ないと思う
- ・ 老齢にて参加不能

○問 17 全内容

- ・ 救急救命訓練・高齢者の搬送訓練
- ・ AED 講習
- ・ アパートからの脱出
- ・ いざという時の避難場所での備品の充分な量
- ・ ガス、電気がない時の食事、何ができるのか？
- ・ がれきなどにはさまれた人の救出方法の教育
- ・ ケガなどの手当て方法
- ・ けが人の応急手当や救助の仕方
- ・ けむりの中の訓練
- ・ じゅん回
- ・ セミナー
- ・ 炊き出し
- ・ 炊き出し やっておくことでノウハウがつく
- ・ 炊き出し(食料、水)
- ・ トイレ→私のような年寄りはいいですが、若い人達のトイレ習慣をもう一度和式を考えないと困るのでは？
- ・ トイレの汚物処理 置水で流せばいいのか
- ・ トイレ下水処理方法
- ・ とくになし
- ・ どんな活動でも年に複数回行ってほしい。
- ・ なかなか参加できないので複数回実施して欲しい
- ・ ナビの渋滞状況で被害状況をタイムリーに見える様にして欲しい
- ・ ハザードマップの配布
- ・ ひきつづき、防災訓練の年1回の活動
- ・ ヒナンバシゴ
- ・ ペットに関して(犬やねこ)
- ・ マナー、衛生などの講習
- ・ マンション(高層)からの避難方法。
- ・ マンション等の避難訓練
- ・ マンション内で自主防災組織を立ち上げた時市との連携の仕方は？
- ・ 安城市民全員での避難訓練
- ・ 安否確認
- ・ 安否確認、防災マップ作りのみで実際の避難訓練はこの町内会では行っていないので、行う必要を感じている。
- ・ 安否確認の実際
- ・ 一部役の者だけでなく町内会による防災、隣近所総動で行うとよい
- ・ 応急手当や炊き出し等の講習会
- ・ 家で出来る防災訓練

- ・ 家具転倒防止講習会
- ・ 家族が高齢者のみの場合の避難方法
- ・ 火災、空き巣
- ・ 各家庭から1名以上参加して毎年違う人が参加するようにして全員経験や体験できると思います。
- ・ 各町内会でも年1回は避難訓練があってもいいかも。
- ・ 学校や地域での合同訓練、又は(地域別でわかりやすい)手引書の配布
- ・ 寒い時、暑い時の身のまわりの物を使っての過ごし方、非常食品を使って食べれるレンジ
- ・ 簡易トイレの作り方
- ・ 簡単な注意事項をわかりやすい絵などで表示物。人目に付く所に設置するため
- ・ 関心の低い人への啓発
- ・ 危険箇所の特定
- ・ 救援物資の配布
- ・ 救急活動
- ・ 救急救命
- ・ 救急救命 AEDetc
- ・ 救急救命、応急処置
- ・ 救急救命器具の使用法
- ・ 救急救命訓練
- ・ 救急救命講習
- ・ 救急救命講習(AEDの使用法)
- ・ 近隣同士のつながりが薄いので取り組めない
- ・ 近隣火災の初期消火訓練
- ・ 繰り返しの訓練だと思います
- ・ 現在実施している点で十分だが防災時マップ等の配布
- ・ 高齢のための援助
- ・ 高齢者、幼児を混えた避難訓練(実際の避難場所へ歩いてみる)
- ・ 高齢者のための訓練
- ・ 高齢者への声掛け(地震等があっても大丈夫かの)
- ・ 高齢者等の手助け、水害(矢作川)
- ・ 今まで通りでよいです。
- ・ 今何があるのか知りません
- ・ 今迄通りでいいと思います。
- ・ 災害に備え何を準備したらよいか分からないので、災害を経験された方などのセミナー
- ・ 災害を体験された人の話を聞きたい
- ・ 災害時における笑顔の増やし方
- ・ 災害時の対処法(サバイバル etc)
- ・ 災害情報弱者への理解講習
- ・ 参加してみたい複合訓練
- ・ 子供に対するケア
- ・ 市民全体の助けあい
- ・ 思いつかない
- ・ 思いつかないけどあってほしいですね
- ・ 思いつかないです
- ・ 実際に震災にあった時に役立ったことを知りたいです。
- ・ 実際に避難所への避難する訓練
- ・ 実際の地震の時と同じように対処する練習
- ・ 住民等のつながりを築く
- ・ 小さな子供も一緒に参加できる活動。近所や幼稚園、みんなで避難場所、避難経路の確認。
- ・ 消火器、備蓄用食料の配布
- ・ 消火器の使用法、実施など。
- ・ 消火器の点検
- ・ 消火訓練
- ・ 消火訓練、避難訓練(要介護者)
- ・ 消防団員の増員
- ・ 障がい者を車椅子等を用いて避難所へ移動させる訓練
- ・ 常時在宅者(高齢者中心)による救出活動
- ・ 情報伝達方法
- ・ 身近な道具の便利な使用方法
- ・ 身近な物で工夫、考える、行動する、知力を積み重ねる、自分の身は自分で守る、訓練でフォローする、共有する
- ・ 身体の不自由な方の避難訓練
- ・ 震災事によどのように行動すべきかの(一般的に)マニュアルの提示
- ・ 水の確保
- ・ 炊き出し
- ・ 炊き出しの訓練
- ・ 炊き出しや非常時の食料の準備
- ・ 総合防災訓練を年1回実施、これを安城市民全世帯参加型にすること。東端町内会では班長等ごく限られた町内で訓練しているだけであり疑問に思う。
- ・ 体力的に参加できない
- ・ 大災害発生時のトイレ、飲料水の設置図のPR
- ・ 誰でも火が起こせる様に出来るスキルをつける 訓練でなくイベントにしてスキルを上げる
- ・ 地域での連携の在り方
- ・ 地域の親密性を高める活動
- ・ 地域の人と顔見知りになれる会
- ・ 地域の避難訓練
- ・ 地域の防災マップづくり
- ・ 地域住民の人が、どの分野までの活動を必要とするか
- ・ 地域出張型救急救命講習
- ・ 地域別の防火訓練
- ・ 地震、火事が起きない様と起きたその時、個人がどうしたらひと目わかる様なパンフレット
- ・ 地震の揺れを体験してみたい
- ・ 地震時の安否確認訓練

- ・ 地震体験
 - ・ 地震体験 消火体験等の体験学習
 - ・ 中高校生の活用
 - ・ 町内で(家族で)避難所まで歩く訓練
 - ・ 町内でできるだけ声掛けをすること。
 - ・ 町内での消火訓練
 - ・ 町内で避難所のことを話し合いをしたいですネ
 - ・ 町内の組単位での防災マップづくりでの各家庭の意識向上と近所でのコミュニケーション作り
 - ・ 町内の避難所への集団で行く訓練
 - ・ 町内の防災訓練を年に1回はやってほしい
 - ・ 町内運動会の種目を防災訓練メニューを参考に取り入れ変更する
 - ・ 町内会だけでなく、避難場所で開催してほしい
 - ・ 町内住民全員での訓練。災害時の各自の役割分担の取り決め
 - ・ 町内小規模単位での話し合い、助けが必要な家庭の把握など
 - ・ 町内単位の避難訓練
 - ・ 賃貸でも部屋を傷つけない家具転倒防止
 - ・ 電気、ガスがなくてもつくれる料理
 - ・ 東日本や阪神での経験談、成功した点、改善できる点など
 - ・ 南海トラフ巨大地震を設定した地域での対処法
 - ・ 日本語が理解できない人達のための各外国語対応
 - ・ 飯ごう炊飯体験
 - ・ 避難の概要説明会
 - ・ 避難訓練
 - ・ 避難訓練(地震時)
 - ・ 避難訓練、防災訓練
 - ・ 避難経路のウォーキング
 - ・ 避難経路の確認
 - ・ 避難施設に実際に宿泊し、災害時のライフラインと同じ条件で生活することを想定した訓練
 - ・ 避難時の設営・運営訓練。他は町内で年1防災訓練に参加している
 - ・ 避難所での過ごし方
 - ・ 避難所の設営・運営訓練
 - ・ 避難所の設営・運営訓練
 - ・ 避難所への誘導案内
 - ・ 避難所までの誘導
 - ・ 避難所運営・設営訓練
 - ・ 避難所生活(トイレなど)や食料などがどれぐらいで届くかの説明
 - ・ 避難所生活(トイレなど)や食料などがどれぐらいで届くかの説明での体験(実際の流れだけでも感じる事ができるかと思うので
 - ・ 避難所生活体験
 - ・ 避難場所、避難経路の確認
 - ・ 避難場所への経路確認
 - ・ 避難場所への誘導訓練をやってほしい
 - ・ 避難場所までの地域ごとの避難訓練(全員対象)
 - ・ 避難場所まで遠いので近くのデンソー体育館に行ってもよいのか確認してほしい。参加者が少ないから例えば出張で消火訓練(消火器の使い方程度のことを)教えてほしい。
 - ・ 避難生活訓練
 - ・ 非常持ち出し品(の工夫)について
 - ・ 非常食や物品の確認を行う活動
 - ・ 備蓄可能食品の試食
 - ・ 備蓄品の配布(ラジオや水)
 - ・ 部落ごとの避難場所の確認
 - ・ 物資の流通方法の訓練
 - ・ 保育園、小学校での引渡し訓練の継続 備蓄品の状況に関する公告(保存版)
 - ・ 保存食などの提供
 - ・ 防災に関する講演会の開催
 - ・ 防災マップづくり
 - ・ 防災運動会
 - ・ 防災訓練
 - ・ 防災訓練(避難訓練)
 - ・ 防災訓練の周知
 - ・ 防災訓練を年2回、各自自主訓練も年2回ぐらいが良いと思います。いつ来るかわからず季節等もあるので
 - ・ 防災訓練等
 - ・ 防災時に役に立つ知恵を教えてくれる講習会
 - ・ 防災用品の使い方(トイレ、食料など)の講習
 - ・ 毎年、町内会主催で実施しているそれで良い
 - ・ 毎年町内会で行っている
 - ・ 問 16 1~6 良い事ですが土、日以外の希望者はいますか？
 - ・ 問16で記入したこと
 - ・ 問 16 の内容
 - ・ 夜に地震発生した時の対応を確実に!!
 - ・ 夜の避難活動
 - ・ 野焼撲滅
 - ・ 様々な情報の収集方法、また避難所でのプライバシー確保方法などの講習会
 - ・ 連絡網の設定
 - ・ 老人世帯 見守り
 - ・ 老人世帯、一人暮らし世帯、弱い人が居る家(手助けが必要)のマップ作り
- 問 18(9)その他 の内容
- ・ 70代2人 90代の3人暮らしで活動には申し訳なく思うけど参加できません

- ・ ボランティア
- ・ 看護師のため職場に行く
- ・ 現在足が痛いから
- ・ 高齢で持病があるため
- ・ 高齢のため、その時の身体の状態による。
- ・ 高齢者のみのため
- ・ 子供が3人まだ小さいので
- ・ 子供が小さいと参加したくても現実無理・・・何か出来る事はないか考えてはいるものの・・・
- ・ 子供のこもり
- ・ 自分の事で精一杯
- ・ 体調、体力的にはどうか
- ・ 体力的に参加できない
- ・ 年令的に活動むりと思う。
- ・ 年令的に自分の事でせいっぱい
- ・ 病気のため
- ・ 別に住んでいる家族
- ・ 老人会、子供会の集まりの時消防署から色々注意を説明してほしいです。

○問 22(25)その他 の内容

- ・ ソーラーパネルにしてありますが電気は大丈夫でしょうか 家がたおれないかぎり
- ・ マンションと一戸築での違い
- ・ 原発再稼働に反対して欲しい
- ・ 情報共有、意外と周知されていないと思う。
- ・ 税金や保険料等は取りに来るクセに補助金等は知らない人が悪いという悪しき風習
- ・ 想像以上に治安が悪くなると聞いた事があるのでその対策
- ・ 文化財の保護→災害に乗じた破壊、盗難による国外流出を防ぐ。治安維持と言える。
- ・ 防災ラジオの無償配布